

---

 総 説
 

---

## 相模湾・東京湾沿岸で記録された ハクジラ亜目マイルカ科について

花上諒大・崎山直夫・加登岡大希・鈴木 聡  
石川 創・山田 格・田島木綿子・樽 創

Ryota Hanaue, Tadao Sakiyama, Daiki Katooka, Satoshi Suzuki, Hajime Ishikawa,  
Tadasu K. Yamada, Yuko Tajima and Hajime Taru: Review of sighting,  
stranding, and bycatch reports of Delphinidae along  
the coast of Sagami Bay and Tokyo Bay

**Abstract.** Adjacent to Japan's Sagami Bay, Tokyo Bay has numerous records of whale sightings, stranding, and bycatch. However, these records are widely distributed across various databases, journals, reports, and articles. As part of the survey on the distribution of Delphinidae in adjacent waters of Japan, we reviewed reports of Delphinidae in the context of Sagami Bay and Tokyo Bay between 1934 and 2020. As a result of the survey, records of 202 Delphinidae, including of 16 different species were obtained: *Delphinus capensis*, *D. delphis*, *Feresa attenuata*, *Globicephala macrorhynchus*, *Grampus griseus*, *Lagenodelphis hosei*, *Lagenorhynchus obliquidens*, *Lissodelphis borealis*, *Orcinus orca*, *Peponocephala electra*, *Pseudorca crassidens*, *Stenella attenuata*, *Stene. coeruleoalba*, *Steno bredanensis*, *Tursiops aduncus*, *T. truncatus*. In this review, we summarize the abovementioned records, as a reference for further investigation.

### 緒 言

日本沿岸の鯨類の記録は、国立科学博物館の「海棲哺乳類ストランディングデータベース (online)」や、日本鯨類研究所の「鯨研通信」ならびに「鯨類のストランディング (座礁・漂着・漂流・迷入)・定置網混獲―ストランディングした鯨について (online)」, 下関海洋アカデミー鯨類研究室 (2020年3月閉鎖) の下関鯨類研究室報告 (No. 1–7) により確認することができる。また、相模湾における鯨類の出現記録は断片的な情報や目録があり (山田・磯貝, 1992; 鴨川シーワールド, 1992; 中村ほか, 1994; Terasawa *et al.*, 1997; 樽, 2006; 崎山ほか, 2011), 近年では国内で初めて漂着が記録されたシロナガスクジラ (樽ほか, 2018; 田島, 2019) や、ハナゴンドウ、ヒゲクジラ亜目の記録がまとめられている (崎山ほか, 2019; 加登岡ほか, 2020)。

本報告では、加登岡ほか (2020) に続き、相模湾とその奥に位置する東京湾で記録された鯨類について、これまでの報告を集計するとともに、新たな情報も加えて、同湾に出現する鯨類を調査する上での基礎資料とすることとした。今回はハクジラ亜目マイルカ科についてまとめた。

### 材料と方法

相模湾と東京湾沿岸の鯨類の記録について、各データベースや既知報告 (国立科学博物館, online; 日本鯨類研究所, 1988a, b, 1989a, b, 1990, 1994, 1995, 1996, 1997, 1999, 2000a, b, 2001, 2003a, b, c; 日本鯨類研究所, online; 鴨川シーワールド, 1992; 山田・磯貝, 1992; 中村ほか, 1994; Terasawa *et al.*, 1997; 樽, 2006; 石川ほか, 2013; 石川, 2014–2019; 崎山ほか, 2019) と、未発表記録 (著者らが漁業関係者から聞き取りによって収集した情報やメディア情報、漂着・漂流・混獲・迷入の現場へ赴き得た情報のうち、上記のデータベースに含まれないもの) を情報源とした (表1の出典を参照)。調査捕鯨や商業捕鯨など、上記以外の情報は含めていない。

本報告では、調査海域の区分を瀬能・松浦 (2007), 佐藤 (2017) を参考に、静岡県 (伊豆半島石廊崎より東側), 神奈川県, 東京都 (東京23区に面する海域又は河川と伊豆大島より北側), 千葉県 (南房総市野島崎より西側) 沿岸で記録 (漂着, 漂流, 混獲, 迷入, 目視: 以下, 記録と表記) されたハクジラ亜目マイルカ科を対象とした。この海域区分は、行政区画の区分よりも、地形などを考慮した形で区切られている。

表 1. 相模湾・東京湾におけるマイルカ科 Delphinidae の全記録。出典と注釈は表の末尾を参照

相模湾	事例番号	年/月/日	場所	生死	状況	個体数	体長	体重 (kg)	性別	出典	
ハセイルカ <i>Delphinus capensis</i>	1	1996/7/30	千葉県 安房郡富山町岩井 (現南房総市)	生存→飼育	混獲(定置網)	1	1.95 m	75	メス	7	
	2	1999/3/30	神奈川県 藤沢市江ノ島沖	死亡	漂着	1	2.09 m	102	メス	7	
	3	2005/6/17	神奈川県 三浦市小網代湾	生存	迷入	1	約1.8 m	-	-	7	
	4	2009/1/17	千葉県 富津市沖約5 km▲	生存	目撃情報	50	-	-	-	7	
マイルカ <i>Delphinus delphis</i>	5	1996/9/13	千葉県 安房郡丸山町三島 (現南房総市)	生存→飼育	漂着	1	-	-	-	7	
	ユメゴンドウ <i>Feresa attenuata</i>	6	1994/6/22	神奈川県 横須賀市芦名マリーナ	生存→飼育	1	2.1 m/213 cm <sup>※30</sup>	130 / 127 <sup>※30</sup>	メス	7, 9, 26, 30	
コヒレゴンドウ <i>Globicephala macrorhynchus</i>	7	2016/10/24	千葉県 館山市館山港	生存	港内迷入	7	-	-	-	4	
	8	1934/5/3	千葉県 館山市波左間西岬 (旧外房西岬村波左間)	生存→死亡(捕獲)	混獲(大謀網)	60	-	75-750	-	3, 9	
	9	1941/12/1	千葉県 館山市沖ノ島沖	生存→死亡	混獲(あぐり網)	300	3.6-5.5 m	-	-	6	
	10	1970/8/26	神奈川県 横須賀市長井沖約10 km	生存	目撃情報;港内迷入	8	-	-	-	7, 9, 27	
	11	1972/1/29	千葉県 館山市岩場▲	生存→死亡	漂着	1	-	-	オス	7, 8, 9	
	12	2004/7/2	神奈川県 横須賀市野比5-2817-3地先	生存→飼育	漂着	1	2.9 m	286.5	メス	7, 9, 26	
	ハナゴンドウ <i>Grampus griseus</i>	13	1958/7/3	神奈川県 横須賀市長井	生存→飼育	漂着	2	2.5 m, 3 m	150, 350	オス1頭, メス1頭	7, 9
		14	1971/3/12	千葉県 館山市砂浜▲	生存→死亡	漂着	1	2.06 m	160	メス	7, 8, 9
		15	1981/11/23	神奈川県 足柄下郡真鶴町	-	混獲(定置網)	1	2.44 m	174	オス	7, 9, 27
		16	1985/2/26	神奈川県 足柄下郡真鶴町沖▲	生存→放流	混獲(定置網)	1	約4 m	-	-	7, 9
		17	1987/7/8	千葉県 館山市砂浜▲	死亡	漂着	1	2.73 m	-	オス	7, 8, 9
		18	1987/11/19	静岡県 賀茂郡河津町谷津沖	生存→飼育	混獲(定置網)	2	3.19 m, 2.93 m	388, 333	オス2頭	7, 9, 10
19		1989/9/11	静岡県 伊東市富戸	生存→飼育	混獲(定置網)	1	2.82 m	255	メス	7, 9, 28	
20		1989/11/4	静岡県 伊東市富戸	-	混獲(定置網)	1	2.32 m	150	メス	7, 9, 28	
21		1989/11/6	静岡県 伊東市富戸	生存→飼育	混獲(定置網)	2	2.25 m	165	メス1頭	7, 9, 28	
22		1989/11/27	静岡県 伊東市富戸	生存→飼育	混獲(定置網)	1	2.43 m	187	オス	7, 9, 28	
23		1989/12/21	千葉県 館山市砂浜▲	死亡	漂着	1	2.72 m	-	メス	7, 8, 9	
24		1991/5/0	神奈川県 横須賀市黒崎の鼻	死亡	漂着	1	-	-	-	7, 9, 16	
25		1992/5/27	神奈川県 三浦市初声町	-	漂着	1	2.9 m	-	-	7, 9	
26		1992/9/30	神奈川県 三浦市三崎町三崎港	死亡	漂着	1	2.4 m/2.51 m <sup>※9</sup>	190	オス	7, 9, 27, 31	
27		1993/3/31	神奈川県 三浦市三浦浜海岸砂浜	死亡	漂着	1	2.42 m	-	オス	7, 9	
28		1994/4/17	神奈川県 平塚市相模川河口	-	漂着	1	-	-	-	27	
29	1994/5/8	神奈川県 茅ヶ崎市柳島(相模川河口)	死亡	漂着	1	約2.5 m	-	オス	7, 9, 15		
30	1996/11/21	神奈川県 三浦郡葉山町大浜海岸	生存→放流	漂着	1	推定2.7 m	-	-	7, 9, 26		
31	1999/11/6	千葉県 館山市館山薬港	生存	港内迷入	1	約3 m	-	-	7, 9		
32	2000/2/9	千葉県 富津市金谷4144-6沖	生存→放流	混獲(定置網)	2	-	-	-	7, 9		
33	2001/2/15	神奈川県 三浦市小網代湾	生存	港内迷入	1	約2.2 m	-	-	7, 9, 22		
34	2001/5/7	神奈川県 足柄下郡真鶴町	死亡	漂着	1	3.1 m	-	-	7, 9		
35	2002/10/28	神奈川県 館山市長須賀地先北条海岸	死亡	漂着	1	2.75 m	-	オス	7, 9, 26		
36	2003/1/10	静岡県 下田市吉佐美大賀茂川上流50 m	死亡	漂着	1	1.76 m	114	オス	7, 9, 26		
37	2003/4/14	静岡県 伊東市松川河口	死亡	漂着	1	約1.8 m	-	-	7, 9, 26		
38	2003/4/19	千葉県 館山市塩見地先下原港	生存→飼育	漂着	1	2.27 m	115	オス	7, 9, 26		

表 1. 相模湾・東京湾におけるマイルカ科 Delphinidae の全記録 (続き). 出典と注釈は表の末尾を参照

相模湾	事例番号	年月/日	場所	生死	状況	個体数	体長	体重 (kg)	性別	出典	
	ハナゴンドウ <i>Grampus griseus</i> 続き										
	39	2003/5/30	千葉県 館山市坂田	死亡	漂着	1	2.8 m	-	-	7, 9, 26	
	40	2004/3/7	千葉県 富津市金谷明鐘岬海岸	死亡	漂着	1	約3 m	-	オス	7, 9, 26	
	41	2004/4/23	神奈川県 逗子市新宿2-13逗子海岸	生存→死亡	漂着	1	2.6 m	-	オス	7, 9, 26	
	42	2005/4/17	神奈川県 茅ヶ崎市浜須賀海岸	生存→飼育	漂着	1	2.71 m	175	メス	7, 9, 26, 28	
	43	2005/5/21	千葉県 安房郡富山町小浦港西500 m (現南房総市)	死亡	マ・ストランドイング	3	-	-	-	7, 9, 26	
	44	2005/6/9	千葉県 富津市八幡新舞子海岸	死亡	漂着	1	2.9 m	-	メス	7, 9, 26	
	45	2007/4/1	静岡県 伊東市富戸	生存→飼育	混獲(定置網)	1	2.0 m	-	オス	6, 28	
	46	2008/3/30	静岡県 下田市吉佐美	生存→放流	マ・ストランドイング	3	-	-	-	7, 9, 26	
	47	2009/1/20	静岡県 館山市沖ノ島手前の砂浜	死亡	漂着	1	-	-	-	7, 9, 26	
	48	2010/1/19	静岡県 下田市爪木崎	生存→飼育	湾内迷入	1	2.0 m	-	メス	28	
	49	2011/3/8	千葉県 館山市波左間沖	生存	混獲(定置網)	2	3.00-4.00 m	-	-	7, 9	
	50	2011/8/10	神奈川県 横須賀市秋谷・関根川河口	死亡	漂着	1	約 270 cm	-	オス	7, 9, 26, 28	
	51	2013/1/30	神奈川県 横須賀市佐島港	生存	港内迷入	3	-	-	-	1, 9	
	52	2013/4/13	静岡県 伊東市川奈	生存→放流	混獲(定置網)	3	約 3 m	-	-	6, 16	
	53	2013/6/17	千葉県 館山市那古北条海岸	生存	漂着	1	2.46 m	-	メス	6, 16	
	54	2014/5/13	千葉県 館山市坂田	生存→放流4死亡1	混獲(定置網)	5	2.88 m	-	メス1	2, 9	
	55	2015/5/28	千葉県▲	生存	湾内迷入	40	-	-	-	3	
	56	2016/12/26	千葉県 館山市平砂浦海岸	生存→死亡	漂着	1	1.83 m	-	オス	4, 9	
	57	2017/4/16	千葉県 館山市見物	生存→放流	漂着	1	-	-	-	5	
	58	2017/5/5	千葉県 館山市塩見228-1番地先	死亡	漂着	1	2.5 m	-	-	6, 28	
	59	2018/1/28	神奈川県 藤沢市鵜沼海岸1	死亡	漂着	1	2.55 m	-	オス	6, 9, 28	
	60	2018/2/19	神奈川県 三浦市三崎町城ヶ島	生存	目視情報	10	-	-	-	9	
	61	2018/6/2	神奈川県 藤沢市辻堂東海岸付近	生存→死亡	漂着	1	184.0 cm	58.2	オス	6, 28	
	62	2020/6/28	神奈川県 三浦市南下浦町金田漁港	生存	港内迷入	1	-	-	-	32	
	サブアフリカ <i>Lagenodelphis hosei</i>										
	63	2016/1/25	静岡県 伊東市湯川3地先	生存	目視情報	30	-	-	-	4	
	カマイルカ <i>Lagenorhynchus obliquidens</i>										
	64	1975/2/5	千葉県 富津市砂浜▲	生存→飼育	漂着	1	1.46 m	33	メス	7, 8, 9	
	65	1975/3/30	千葉県 安房郡鋤南町	生存→飼育	混獲(定置網)	1	1.80 m	64	オス	7, 8, 9	
	66	1975/4/17	神奈川県 平塚▲	生存→飼育	-	1	173 cm	-	オス	32	
	67	1976/1/23	神奈川県 江ノ島	生存→飼育	混獲(定置網)	1	158 cm	-	メス	32	
	68	1976/3/24	神奈川県 三浦市砂浜	生存→飼育	漂着	1	1.97 m	76	オス	7, 8, 9, 27	
	69	1977/2/17	静岡県 賀茂郡河津町	-	混獲(定置網)	1	1.54 m	約34	メス	7, 9	
	70	1981/3/29	静岡県 賀茂郡河津町	-	混獲(定置網)	1	1.96 m	約64	メス	7, 9	
	71	1983/4/3	千葉県 安房郡富山町 (現南房総市)	生存→死亡	混獲(定置網)	1	1.63 m	71	オス	7, 8, 9	
	72	1983/5/4	神奈川県 横須賀市久里浜港火力発電所取水口附近	生存4死亡1	港内迷入	1	-	-	-	7, 9, 27, 31	
	73	1983/5/5	千葉県 安房郡富山町 (現南房総市)	生存4死亡1 →飼育3死亡1	混獲(定置網)	5	2.09 m, 1.75 m, 1.80 m, 2.03 m, 1.82 m	115, 85, ?, 105, ?	オス3頭, メス2頭	7, 8, 9	
	74	1984/1/15	千葉県 安房郡富山町岩井 (現南房総市)	生存→飼育	混獲(定置網)	2	1.54 m, 1.42 m	40, 34	オス1頭, メス1頭	7, 9	
	75	1985/5/15	千葉県 安房郡富山町岩井 (現南房総市)	生存→飼育	混獲(定置網)	1	1.8 m	68	オス	9	
	76	1988/5/12	神奈川県 鎌倉市七里ガ浜	死亡	漂着/迷入**27	1	2.12 m	90	メス	7, 9, 11, 27	
	77	1989/5/8	神奈川県 小田原市早川石橋漁場	生存→放流→飼育	混獲(定置網)	1	217 cm	130**32	オス	7, 9, 13, 27	

表 1. 相模湾・東京湾におけるマイルカ科 Delphinidae の全記録 (続き)。出典と注釈は表の末尾を参照

相模湾 事例番号	年/月/日	場所	生死	状況	個体数	体長	体重 (kg)	性別	出典
カマイルカ <i>Lagenorhynchus obliquidens</i> 続き									
78	1989/5/18	千葉県 安房郡富山町岩井 (現南房総市)	生存→飼育2放流5	混獲(定置網)	7	1.98 m, 1.90 m, 2.11 m, 1.91 m, 2.00 m, 1.94 m, 1.78 m	85, 95	オス3頭, メス4頭	7, 8, 9
79	1989/8/31	神奈川県 小田原早川漁港	生存→飼育	混獲(定置網)	1	217 cm	130	オス	32
80	1992/3/0	千葉県 安房郡鋸南町保田	死亡	漂着	1	-	-	-	5
81	1993/3/0	千葉県 館山市見物	死亡	漂着	1	-	-	-	5
82	1993/4/27	東京都 大島町風早崎東	死亡	漂着	1	1.8 m	-	-	7, 9
83	1998/1/3	神奈川県 横須賀市長井長井港湾内	死亡	漂着	1	2.08 m / 推定体長3.5-3.8 m <sup>**26</sup>	-	オス	7, 9, 26
84	1998/8/16	神奈川県 鎌倉市材木座海岸	死亡	漂着	1	2.22 m	-	オス	7, 9, 26
85	2002/1/7	神奈川県 館山市波左間沖	生存→飼育	混獲(大型定置網)	1	1.99 m	72	オス	7, 9
86	2002/1/30	神奈川県 茅ヶ崎市東海岸4-5-13地先	死亡	漂着	1	2.11 m	-	オス	7, 9, 19, 32
87	2002/3/22	神奈川県 鎌倉市滑川河口材木座海岸	死亡	漂着	1	2.11 m	-	オス	7, 9, 26
88	2002/12/22	神奈川県 横須賀市久里浜港フェリー発着場	生存2→死亡1	港内迷入	2	1.48 m	32.5	メス1頭	7, 9, 26
89	2002/12/30	東京都 大島町砂の浜	死亡	漂着	1	2.36 m	-	オス	7, 9, 26
90*	2003/1/6	神奈川県 藤沢市江の島灯台沖240*3.5マイル	死亡	混獲(ヒラメー枚網)	1	2.11 m / 208.8 cm <sup>**32</sup>	114.5	オス	7, 9, 26, 32
91	2003/1/25	千葉県 館山市浜田下原海岸	死亡	漂着	1	2.15 m	-	メス	7, 9, 26
92	2003/4/21	千葉県 館山市波左間	死亡	漂着	1	1.67 m	-	メス	7, 9, 26
93	2004/1/15	神奈川県 横須賀市佐島3天神島	生存→死亡	漂着	1	1.57 m	35	オス	7, 9, 26
94	2005/1/23	静岡県 伊東市大川河口	死亡	漂着	1	2.5 m	-	メス	7, 9, 26
95	2005/2/16	神奈川県 足柄下郡湯河原町福浦	死亡	漂着	1	1.645 m / 1.65 m <sup>**7</sup>	-	オス	7, 9, 26, 29
96	2005/3/20	千葉県 館山市波左間沖	生存→死亡1飼育1	混獲(定置網)	2	1.9 m, 2.20 m	81	オス2頭	7, 9, 26, 29
97	2005/4/22	神奈川県 平塚市袖ヶ浜	死亡	漂着	1	2.225 m / 2.26 m <sup>**7</sup>	-	オス	7, 9, 26, 29
98	2005/5/30	神奈川県 逗子市小坪4地先大崎公園	死亡	漂着	1	1.94 m	-	-	7, 9, 26
99	2007/4/5	神奈川県 茅ヶ崎沖▲	生存	目視情報	120	-	-	-	7, 9
100	2007/4/8	千葉県 安房郡鋸南町勝山沖300 m	死亡	漂流	1	-	-	-	7, 9, 26
101	2008/2/29	神奈川県 鎌倉市材木座海岸	死亡	漂着	1	残部長170 cm	-	メス	7, 9, 26
102	2008/3/16	神奈川県 三浦郡葉山町一色三ヶ丘	死亡	漂着	1	-	-	メス	7, 9, 26
103	2008/4/22	神奈川県 三浦郡葉山町一色小磯	死亡	漂着	1	-	-	-	7, 9, 26
104	2008/5/3	千葉県 安房郡鋸南町大六海岸	死亡	漂着	1	-	-	オス	7, 9, 26
105	2008/5/9	神奈川県 茅ヶ崎市南湖砂防柵S54	死亡	漂着	1	-	-	-	7, 9, 26
106	2010/3/2	神奈川県 茅ヶ崎市白浜	死亡	漂着	1	184 cm	-	メス	32
107*	2011/3/19	神奈川県 鎌倉市七里ガ浜地先	死亡	漂着	1	221 cm <sup>**32</sup>	-	-	7, 9, 26, 32
108	2011/4/3	千葉県 南房総市高崎岩井川河口	死亡	漂着	1	-	-	-	7, 9, 26
109	2011/4/4	千葉県 南房総市富浦町原岡	死亡	漂着	1	2.25 m	-	メス	7, 9, 26
110	2011/5/1	神奈川県 藤沢市辻堂東海岸	死亡	漂着	1	1.88 m	-	-	7, 9, 26
111	2011/5/7	千葉県 南房総市富浦町南無谷小浜	死亡	漂着	1	-	-	-	7, 9, 26
112	2013/3/31	神奈川県 小田原市▲	-	混獲	1	-	-	-	1, 9
113	2014/11/8	神奈川県 横須賀市鶴居観音崎沖	生存	目視情報	2	-	-	-	2, 9
114	2016/5/8	神奈川県 横須賀市横須賀港沖	生存	港内迷入	2	-	-	-	4, 9
115	2017/4/19	神奈川県 横須賀市長井6-31地先荒崎海岸	死亡	漂着	1	2.26 m	-	オス	5
116	2017/4/22	神奈川県 小田原～真鶴町沖	生存	目視情報	100	-	-	-	5
117	2017/4/29	神奈川県 藤沢市辻堂西海岸3地先	死亡	漂着	1	2.4 m	-	-	5

表 1. 相模湾・東京湾におけるマイルカ科 Delphinidae の全記録 (続き)。出典と注釈は表の末尾を参照

相模湾	事例番号	年/月/日	場所	生死	状況	個体数	体長	体重 (kg)	性別	出典	
	カマイルカ <i>Lagenorhynchus obliquidens</i> 続き										
	118	2019/2/4	神奈川県 三浦郡葉山町小浜海岸	死亡	漂着	1			オス	6	
	セマイルカ <i>Lissodelphis borealis</i>										
	119	1976/3/24	神奈川県 横須賀市長井海岸	生存→飼育	漂着	2	1.91 m, 2.27 m	-	オス1頭, マス1頭	7, 9, 19	
	シヤチ <i>Orcinus orca</i>										
	120	2015/5/25	千葉県 富津市金谷沖約6 km	生存	目視情報	5					
	121	2016/8/27	神奈川県 足柄下郡真鶴町沖▲	生存	目視情報	1			オス1頭, マス1頭	3, 9, 4, 9	
	カズハゴンドウ <i>Peponocephala electra</i>										
	122	1963/8/12	神奈川県 平塚市海岸	生存→死亡(捕獲)	漂着	1	2.6 m	-	オス	7, 9, 27	
	カズハゴンドウ <i>Peponocephala electra</i> 続き										
	123	1996/9/12	静岡県 下田市白浜長田海岸	生存→死亡	漂着	1	2.54 m	-	オス	27	
	124	2010/6/28	千葉県 安房郡鋸南町沖500 m	生存	目視情報	1	約2 m	-	-	7, 9	
	125	2013/1/27	千葉県 南房総市白浜町白浜野島崎	死亡	漂着	1	-	-	-	1, 9	
	オキゴンドウ <i>Pseudorca crassidens</i>										
	126	1977/7/27	静岡県 賀茂郡河津町	生存→飼育1	混獲(定置網)	7	3.3 m	-	マス5頭	7, 9	
	マダライカ <i>Stenella attenuata</i>										
	127	1984/12/18	千葉県 館山市砂浜▲	生存→死亡	漂着	1	1.91 m	70	マス	7, 8, 9	
	128	1987/1/5	静岡県 下田市田牛	死亡	漂着	1	1.91 m	-	マス	7, 9	
	129	1987/4/6	静岡県 下田市下田港	生存	港内迷入	5	-	-	-	7, 9	
	130	1987/10/18	神奈川県 三浦市菊名三浦海岸	生存→死亡	迷入/漂着 <sup>※31</sup>	1	1.85 m <sup>※1,9</sup> / 190 cm <sup>※27,31</sup>	60	マス	7, 9, 27, 31	
	131	1989/4/27	神奈川県 三浦郡葉山町一色海岸	生存→放流	漂着	1	推定1.2 m	-	マス	7, 9, 13, 27	
	132	1994/9/30	千葉県 館山市北条海岸	生存→飼育	-	1	-	-	オス	7, 9	
	スジイルカ <i>Stenella coeruleoalba</i>										
	133	1971/2/17	千葉県 館山市砂浜▲	生存→飼育	漂着	1	1.47 m	36	マス	7, 9	
	134	1989/5/10	千葉県 館山市砂浜▲	生存→死亡	漂着	1	1.49 m	-	オス	7, 8, 9	
	135	2001/2/28	神奈川県 三浦市初声町和田長浜	生存→死亡	漂着	1	2.25 m	-	マス	7, 9, 26	
	136	2002/3/20	千葉県 館山市香大賀海岸	死亡	漂着	1	2.23 m	-	オス	7, 9, 26	
	137	2002/3/26	千葉県 館山市香99番地地先	死亡	漂着	1	2.2 m	-	オス	7, 9, 26	
	138	2004/9/9	神奈川県 茅ヶ崎市浜須賀海岸	死亡	漂着	1	2.166 m / 2.17 m <sup>※7</sup> / 216.1 cm <sup>※32</sup>	101	オス	7, 9, 26, 32	
	139	2005/4/15	神奈川県 横須賀市長坂斉田浜	死亡	漂着	1	2.17 m	-	オス	7, 9, 26	
	140	2005/10/25	神奈川県 横須賀市秋谷海岸	死亡	漂着	2	2.3 m, 1.45 m	-	-	7, 9, 26	
	141	2006/3/27	千葉県 館山市船形	死亡	漂着	1	2.2 m	-	-	7, 9, 26	
	142	2007/6/3	千葉県 館山市洲崎海岸	死亡	漂着	2	2.35 m	-	-	7, 9, 26	
	143	2007/6/11	千葉県 館山市那古海岸	死亡	漂着	1	-	-	-	7, 9	
	144	2007/6/24	千葉県 南房総市富浦町多田良	死亡	漂着	1	-	-	マス	9, 26	
	145	2008/12/18	神奈川県 横須賀市長井漁港	死亡	漂着	1	-	-	-	7, 9, 26	
	146	2009/12/31	千葉県 館山市北条海岸	生存→飼育	漂着	1	1.78 m	62.5	マス	7, 9, 31	
	147	2011/4/8	神奈川県 逗子市新宿2地先	死亡	漂着	1	2.27 m	-	オス	7, 9, 26	
	148	2012/3/2	神奈川県 藤沢市鶴沼海岸1	死亡	漂着	1	2.03 m	-	オス	7, 9	
	149	2017/4/9	神奈川県 藤沢市片瀬東浜海水浴場付近	死亡	漂着	1	107 cm	-	オス	32	
	150*	2017/4/18	神奈川県 茅ヶ崎市東海岸南6地先菱沼海岸	死亡	マス・ストランドイング	2	2.443 m / 244 cm <sup>※32</sup> , 2.180 m / 215 cm <sup>※32</sup>	-	オス1頭, マス1頭	5, 32	

表 1. 相模湾・東京湾におけるマイルカ科 Delphinidae の全記録 (続き). 出典と注釈は表の末尾を参照

相模湾	事例番号	年月/日	場所	生死	状況	個体数	体長	体重 (kg)	性別	出典	
	スズイルカ <i>Stenella coeruleoalba</i> 続き										
	151*	2018/10/27	藤沢市辻堂海岸3丁目4	死亡	漂着	1	223.0 cm <sup>※32</sup>	-	オス	6, 32	
	152	2019/2/10	三浦市初声町三戸エビカ浜	死亡	漂着	1	-	-	メス	6	
	153	2019/2/16	神奈川県 足柄下郡真鶴町真鶴164-1	死亡	漂着	1	-	-	-	6	
	154	2019/3/21	千葉県 館山市北条海岸	生存→放流	漂着	1	-	-	-	6	
	155	2019/3/22	神奈川県 横須賀市野比5	生存→飼育→死亡	漂着	1	2.2 m	-	メス	6	
	156	2019/4/18	千葉県 館山市洲崎	死亡	漂着	1	2.3 m	-	-	6	
	157*	2019/4/20	神奈川県 鎌倉市稲村ヶ崎2丁目海岸	死亡	漂着	1	253 cm <sup>※32</sup>	-	オス	6, 32	
	158*	2019/4/21	神奈川県 茅ヶ崎市柳島	死亡	漂着	1	225 cm <sup>※32</sup>	-	オス	6, 32	
	159*	2019/10/20	神奈川県 藤沢市片瀬東浜	生存→死亡	漂着	1	212 cm <sup>※32</sup>	-	-	32	
	160*	2020/4/26	神奈川県 中郡大磯町東町3丁目18付近	生存→放流	漂着	1	-	-	-	32	
	161*	2020/5/3	神奈川県 茅ヶ崎市東海岸南4地先	死亡	漂着	1	2.32 m	-	オス	32	
	162*	2020/5/6	静岡県 下田市白浜大浜海岸	生存→飼育	漂着	1	-	138	-	32	
	163*	2020/5/9	神奈川県 藤沢市江ノ島海岸	生存→放流→死亡	漂着	1	2.2 m	-	メス	32	
	164*	2020/5/13	神奈川県 平塚市龍城ヶ丘19	死亡	漂着	1	2.3 m	-	オス	32	
	165*	2020/5/23	神奈川県 平塚市	死亡	漂着	1	-	-	-	32	
	シロハイルカ <i>Steno bredanensis</i>										
	166	1990/7/20	静岡県 下田市吉佐美多々戸浜	生存→飼育	漂着	2	2.34 m, 1.495 m	-	オス1頭, メス1頭	7, 9, 14	
	167	2003/1/6	東京都 大島町野増字間伏砂の浜海水浴場	死亡	漂着	1	2.36 m	-	-	7, 9, 26	
	168	2018/12/10	千葉県 伊東市富戸港沖	生存→放流	混獲(定置網)	1	-	-	-	6	
	バンドウイルカ <i>Tursiops truncatus</i>										
	169	1997/12/2	千葉県 館山市平砂浦海岸	死亡	漂着	1	2.1 m	-	-	7, 9	
	170	2000/3/21	神奈川県 藤沢市江ノ島岩屋沖	生存	目視情報	2	約 2 m	-	-	7, 9, 21	
	171	2001/7/19	千葉県 館山市▲	死亡	漂着	1	1.73 m	-	-	7, 9	
	172	2003/8/1	神奈川県 逗子市逗子マリーナ沖オオタカ根	生存→放流	混獲(タコ壺漁ロープ)	1	2.4 m	-	オス	7, 9, 24	
	173	2005/7/17	千葉県 安房郡鋸南町勝山漁港沖▲	生存	目視情報	3	-	-	-	7, 9	
	174	2008/8/25	神奈川県 横須賀市観音崎	死亡	漂着	1	2.4 m	-	-	7, 26	
	175	2012/1/20	神奈川県 三浦市南下浦町松輪	死亡	漂着	1	約 1.9 m	-	メス	7, 9	
	176	2015/1/25	神奈川県 三浦市初声町三戸	生存	港内迷入	4	-	-	-	3, 9	
	177	2020/4/8	神奈川県 横須賀市秋谷長者ヶ崎	死亡	漂着	1	3.08 m	-	-	32	
	東京湾										
	事例番号	年月/日	場所	生死	状況	個体数	体長	体重	性別		
	ハセイルカ <i>Delphinus capensis</i>										
	178	1999/11/30	神奈川県 横浜市区金沢区八景島東2 km沖の根浮標付近	生存	湾内迷入	20	-	-	-	7	
	マイルカ <i>Delphinus delphis</i>										
	179	1974/12/22	東京都 墨田区上流(発見, 新大橋・阿国大橋)→葛飾区四ツ木3(1頭)足立区江北2(2頭) (漂着, 共に荒川上流)▲	生存→死亡	河川迷入→翌日漂着	4	1.44 m, 1.83 m, 1.78 m	38, 73, 67	オス1頭, メス2頭	7, 8, 9	
	180	1996/1/7	神奈川県 横須賀市横須賀本港	生存→死亡2放流4	港内迷入	6	1.855 m / 1.86 m <sup>※7</sup> , 1.79 m	72.5, 61	メス2	7, 9, 17	
	181	1997/4/5	神奈川県 横浜市区磯子1丁目地先	生存→死亡	港内迷入	1	約 1.5 m	-	-	7, 9, 18	
	182	2005/1/19	神奈川県 横浜市中区南本牧埠頭	生存	港内迷入	2	約 180 cm	-	-	7, 9	

表 1. 相模湾・東京湾におけるマイルカ科 Delphinidae の全記録 (続き)

東京湾	事例番号	年/月/日	場所	生死	状況	個体数	体長	体重	性別	出典	
	マイルカ <i>Delphinus delphis</i> 続き										
	183	2005/9/13	神奈川県 横須賀市馬堀海岸	生存	迷入	2	-	-	-	7, 9	
	184	2007/8/20	神奈川県 横浜市金沢区八景島地先	生存	港内迷入	2	約 1.7 m, 約 1.3 m	-	-	7, 9	
	ハナゴンドウ <i>Grampus griseus</i>										
	185	1965/4/15	神奈川県 横須賀市田浦港	生存→捕獲	迷入	1	-	-	-	3, 9	
	186	1983/8/6	神奈川県 横浜市西区高島埠頭	生存	港内迷入	1	-	-	-	7, 9	
	187	1989/5/2	千葉県 千葉市千葉港	-	港内迷入	1	-	-	-	3, 9	
	188	1999/11/20	東京都 港区レインボーブリッジ付近	生存	港内迷入	1	-	-	-	9, 20	
	189	2003/10/24	神奈川県 横浜市鶴見区大黒埠頭1番地先	生存	港内迷入	1	約 2 m	-	-	7, 9, 25	
	190	2015/4/11	神奈川県 横須賀市吉倉町1丁目、海上自衛隊横須賀地方総監部敷地内の砂だまり	死亡	漂着	1	約 190 cm	-	-	3, 9	
	カマイルカ <i>Lagenorhynchus obliquidens</i>										
	191	1985/2/7	神奈川県 横浜市西区高島棧橋	生存	港内迷入	4	-	-	-	7, 9	
	192	2007/8/8	東京都 北区志茂5荒川	生存	河川迷入	1	1.94 m	51	オス	7, 9	
	193	2013/2/21	神奈川県 横須賀市横須賀本港	生存	港内迷入	4	-	-	-	1, 9	
	194	2015/1/21	神奈川県 横浜市金沢区八景島沖	生存	港内迷入	2	-	-	-	3, 9	
	195	2017/2/3	千葉県 木更津市	生存	湾内迷入	2	-	-	-	5	
	セマイルカ <i>Lissodelphis borealis</i>										
	196	1993/5/12	東京都 品川区大井水産埠頭区埠頭	生存	港内迷入	1	約 2 m	-	-	7, 9	
	シャチ <i>Orcinus orca</i>										
	197	1970/4/23	千葉県 市原市市原港	生存→死亡(捕獲)	港内迷入	11	6.98 m, 5.98 m	-	オス1頭, メス1頭	7, 8, 9	
	198	1999/12/20	東京都 横須賀港沖→羽田沖→川崎沖▲	生存	湾内迷入	2	約 5 m	-	オス1頭	7, 9, 20	
	マダライカ <i>Stenella attenuata</i>										
	199	1988/11/20	千葉県 市原市八幡運河	死亡	港内迷入	4	1.92 m, 1.78 m, 1.54 m, 1.41 m	75	オス4頭	9, 12	
	ミンナバンドウイルカ <i>Tursiops aduncus</i>										
	200	2008/8/25	神奈川県 横須賀市走水2丁目、観音崎京急ホテル下	死亡	漂着	1	2.4 m	-	-	9	
	バンドウイルカ <i>Tursiops truncatus</i>										
	201	2000/3/10	千葉県 船橋市船橋市漁港	生存	港内迷入	1	約 3 m	-	-	7	
	202	2005/8/10	神奈川県 横浜市金沢区鳥浜町	生存	港内迷入	3	2-3 m	-	-	7, 9	

出典

1: 石川 (2014) ; 2: 石川 (2015) ; 3: 石川 (2016) ; 4: 石川 (2017) ; 5: 石川 (2018) ; 6: 石川 (2019) ; 7: 石川ほか (2013) ; 8: 鴨川シーワールド (1992) ; 9: 国立科学博物館ホームページ「海棲哺乳類ストラディングデータベース」(online) ; 10: 日本鯨類研究所 (1988a) ; 11: 日本鯨類研究所 (1988b) ; 12: 日本鯨類研究所 (1989a) ; 13: 日本鯨類研究所 (1989b) ; 14: 日本鯨類研究所 (1990) ; 15: 日本鯨類研究所 (1994) ; 16: 日本鯨類研究所 (1995) ; 17: 日本鯨類研究所 (1996) ; 18: 日本鯨類研究所 (1997) ; 19: 日本鯨類研究所 (2000a) ; 20: 日本鯨類研究所 (2000b) ; 21: 日本鯨類研究所 (2000c) ; 22: 日本鯨類研究所 (2001) ; 23: 日本鯨類研究所 (2003a) ; 24: 日本鯨類研究所 (2003b) ; 25: 日本鯨類研究所 (2003c) ; 26: 日本鯨類研究所 ストラディングレコード (online) ; 27: 中村ほか (1994) ; 28: 崎山ほか (2019) ; 29: 樽 (2006) ; 30: Terasawa *et al.* (1997) ; 31: 山田・磯貝 (1992) ; 32: 本報告.

※: それぞれの番号の出典元に記載されていた数値.

事例\*: 新発見.

▲: 場所が特定できず、図 1-9 に記せなかった記録.

## 各記録の定義、表記ルール

本稿は加登岡ほか（2020）とともに相模湾・東京湾でこれまで記録された海生哺乳類のストランディングレコードについて集約している報告となるため、以下にあげる「各記録の定義」と「記録の表記ルール」については、加登岡ほか（2020）に従った。

各記録の定義は以下の通りである。

- ・漂着：死体が海岸に流れ着いたもの。本報告では生体が座礁した場合も含めた。
- ・漂流：死体が海上を漂っているもの。
- ・混獲：主に定置網などの漁具へ入り込んだもの。ただし、漂流した死体が漁具に引っかかった場合は除く。
- ・迷入：生体が港湾に迷い込んだもの。
- ・目視：生体が海上を遊泳している姿を目視で確認したもの。

記録の表記ルールは、以下の通りである。

1. 表1の記録の分類は出典元に従った。
2. 本報告が新知見となる記録には事例番号に「\*」を記載した。
3. 日付と場所が近いものは同一個体を指している可能性がある。検討の上、同一個体と考えられるものは、同一記録として以下のように表1に記載した。
  - ・場所は詳細な地名が記されている記録を選択した。住所の表記は出典元に従った。
  - ・状況の表記は出典元に従った。出典元で状況の記録が異なる際は、出典元で多数あった状況を最初に記載し、異なる状況は「/」で区切り、「※」表記をし、その後に出典元の番号を記載した。
  - ・漂流から漂着など2つの情報がある時は、最初に記録された状況及び日付を記録として集計した。
  - ・体長、体重の表記は出典元に従った。出典元で記載が異なる際は、出典元で多数あったものを最初に記載し、異なる値は「/」で区切り、「※」表記をし、その後に出典元の番号を記載した。
4. 1度に複数個体が記録され、なおかつ体長が複数で記録がある場合は「,」で区切ってそれぞれ記載した。

各記録に記載されていた備考などの情報は省略したため、詳細については出典元を参照していただきたい。

## 結果

1934年5月から2020年6月までに、相模湾で177例、東京湾で25例の計202例のハクジラ亜目マイルカ科の記録があった（表1）。これらの内、記録された場所が概ね特定できた183ヶ所を図1-9に示した（場所の特定ができなかった記録は表1の住所に▲を記した）。相模湾で記録されたのは、ハセイルカ *Delphinus capensis* 4例、マイルカ *D. delphis* 1例、ユメゴンドウ *Feresa attenuata*

2例、コビレゴンドウ *Globicephala macrorhynchus* 5例、ハナゴンドウ *Grampus griseus* 50例、サラワクイルカ *Lagenodelphis hosei* 1例、カマイルカ *Lagenorhynchus obliquidens* 55例、セミイルカ *Lissodelphis borealis* 1例、シャチ *Orcinus orca* 2例、カズハゴンドウ *Peponocephala electra* 4例、オキゴンドウ *Pseudorca crassidens* 1例、マダライルカ *Stenella attenuata* 6例、スジイルカ *Steno coeruleoalba* 33例、シワハイルカ *Steno bredanensis* 3例、バンドウイルカ *Tursiops truncatus* 9例の計15種（表2）。東京湾で記録されたのはハセイルカ1例、マイルカ6例、ハナゴンドウ6例、カマイルカ5例、セミイルカ1例、シャチ2例、マダライルカ1例、ミナミバンドウイルカ *Tursiops aduncus* 1例、バンドウイルカ2例の9種（表2）。両湾を合わせると計13属16種のハクジラ亜目マイルカ科が記録されていた（表1, 2）。

### ハセイルカ

#### *Delphinus capensis* Gray, 1828

（図1；表1-4）

本種は国際自然保護連合（IUCN）レッドリストカテゴリーでは情報不足種（Data Deficient）に選定されている（IUCN, online）。生息域は大西洋、インド洋、太平洋の熱帯から温帯海域である。日本の太平洋沿岸では、伊豆半島以南に分布するとされ、土佐湾では比較的良好に見られる。また、東シナ海にも分布し、沿岸域に生息する（Ohdachi *et al.*, 2015）。

前述の通り、相模湾は本種の分布域の太平洋岸の北限縁辺にあたるが、記録は相模湾4例、東京湾1例、計5例であった。記録時期は1月、3月、6月、7月、11月各1例ずつであり、季節性は見られなかった。事例番号4, 178（表1：以下、事例番号は全て表1の左端の数字に対応する）では複数の個体が確認されている。

### マイルカ

#### *Delphinus delphis* Linnaeus, 1758

（図1；表1-4）

本種は国際自然保護連合（IUCN）レッドリストカテゴリーでは低危惧種（Least Concern）に選定されている（IUCN, online）。大西洋・太平洋の熱帯から温帯の外洋に分布する。日本近海での情報は限られているが、主に伊豆半島以北の太平洋沿岸に分布する。通常は外洋に生息しており、沿岸海域ではあまり見られない（Ohdachi *et al.*, 2015）。

前述の通り、相模湾は本種の分布域の南限にあたるが、本種の記録は相模湾1例、東京湾6例、計7例であった。東京湾の6例はすべて迷入となっており、記録時期は1月2例、4月、8月、9月、12月にそれぞれ1例であった。石川（1995b）ではマイルカの太平洋側での記録は11-4月のみだったのに対し、今回確認できた7例に目立った季節性は見られなかった。

**ユメゴンドウ**  
***Feresa attenuata* Gray, 1874**

(図2；表1-4)

本種は国際自然保護連合（IUCN）レッドリストカテゴリーでは低危惧種（Least concern）に選定されている（IUCN, online）。世界の熱帯・亜熱帯海域に分布し、ハワイ海域や太平洋東部の熱帯地域で比較的良好に見られる。目撃例は少ないが、日本では比較的頻繁に座礁した

記録があり、その多くは沖縄県からのものである。茨城県が最北端の記録となる（Ohdachi *et al.*, 2015）。

本調査においては、本種の記録は相模湾のみ2例であった。記録時期は6月と10月であり、いずれも港内への迷入である。事例番号6のライブストランディング個体は体長213 cmで、歯の査定から20歳のメスと考えられた。血液性状、細菌、寄生虫について調査されている（Terasawa *et al.*, 1997）。

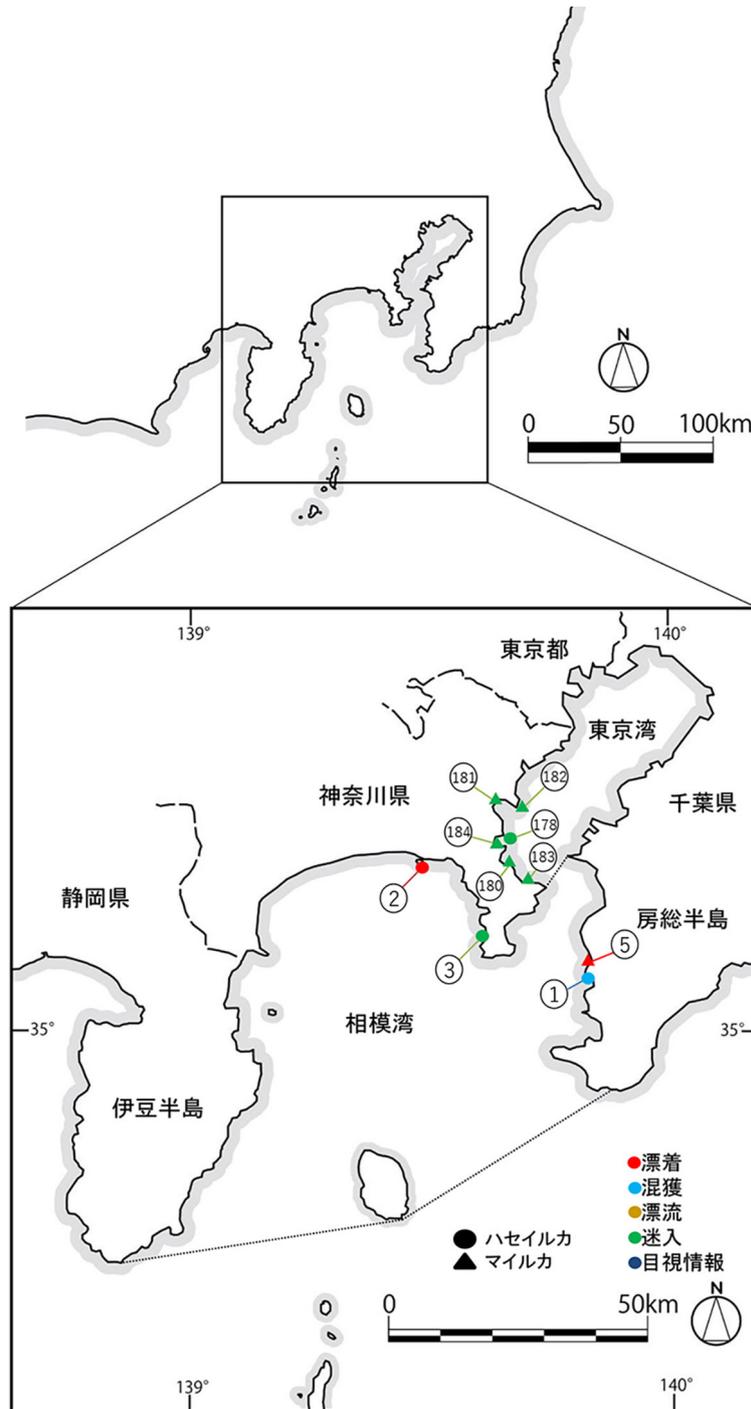


図1. 相模湾および東京湾におけるハセイルカ *Delphinus capensis* (●) とマイルカ *Delphinus delphis* (▲) の記録された場所 (番号は表1の事例番号に対応)。

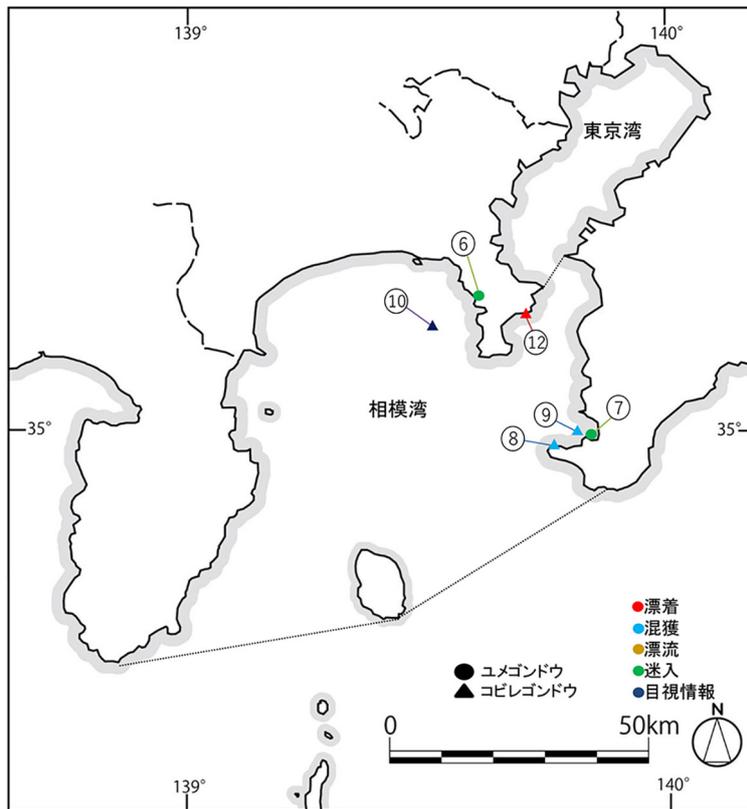


図 2. 相模湾および東京湾におけるユメゴンドウ *Feresa attenuate* (●) とコビレゴンドウ *Globicephala macrorhynchus* (▲) の記録された場所 (番号は表 1 の事例番号に対応).

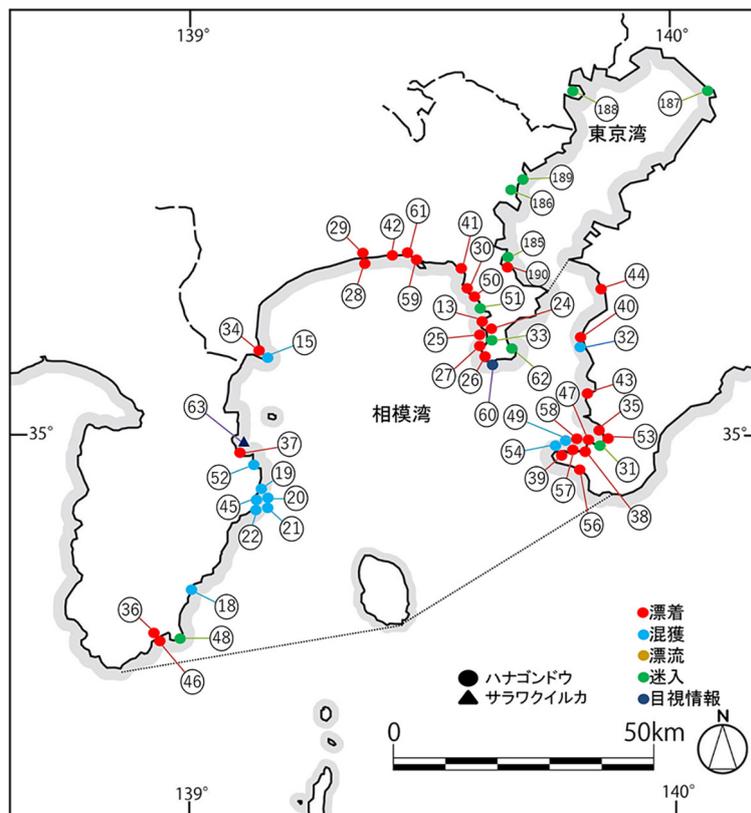


図 3. 相模湾および東京湾におけるハナゴンドウ *Grampus griseus* (●) とサラワクイルカ *Lagenodelphis hosei* (▲) の記録された場所 (番号は表 1 の事例番号に対応).

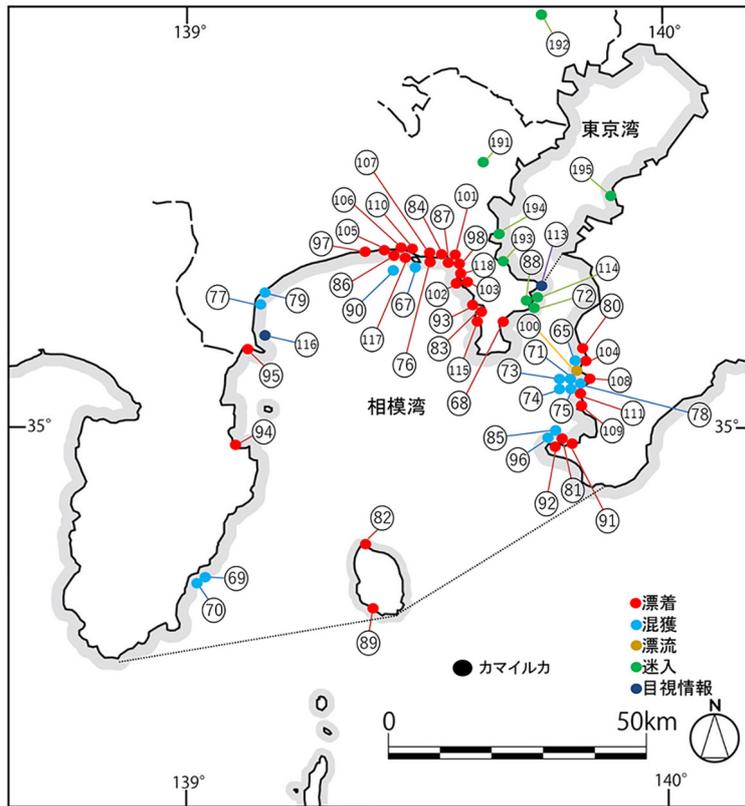


図4. 相模湾および東京湾におけるカマイルカ *Lagenorhynchus obliquidens* の記録された場所 (番号は表1の事例番号に対応).

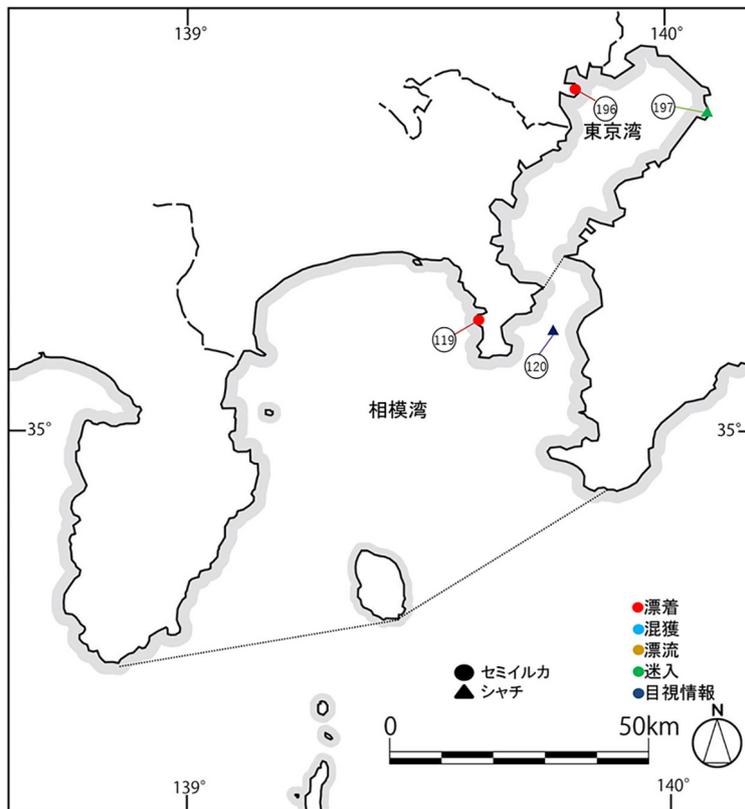


図5. 相模湾および東京湾におけるセマイルカ *Lissodelphis borealis* (●) とシヤチ *Orcinus orca* (▲) の記録された場所 (番号は表1の種別事例番号に対応).

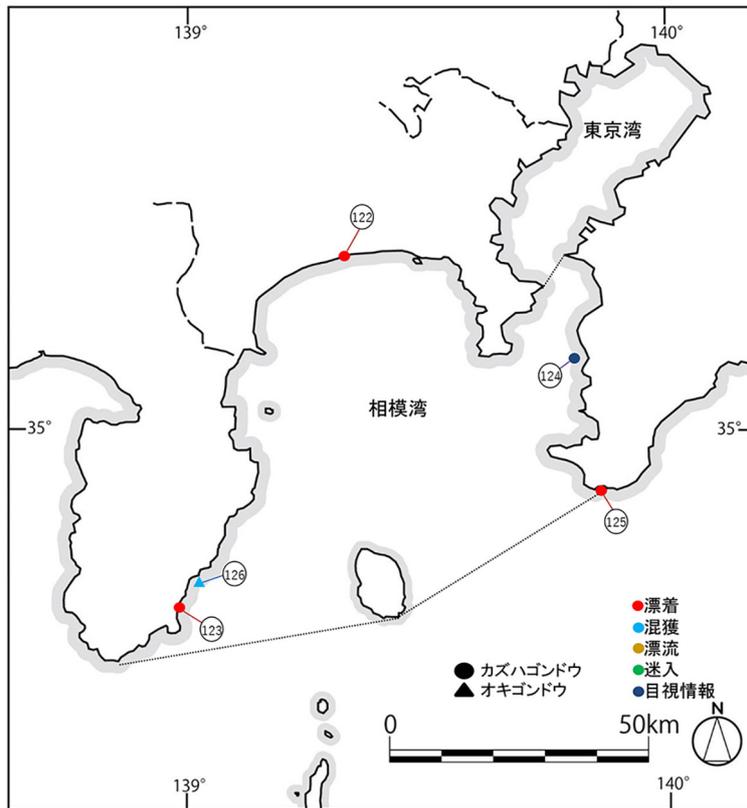


図6. 相模湾および東京湾におけるカズハゴンドウ *Peponocephala electra* (●) とオキゴンドウ *Pseudorca crassidens* (▲) の記録された場所 (番号は表1の事例番号に対応).

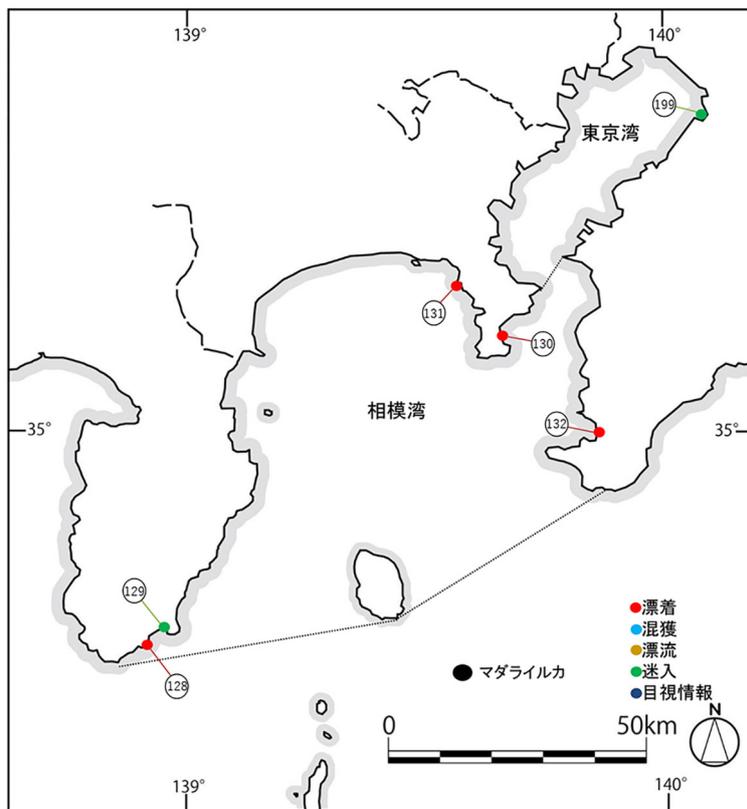


図7. 相模湾および東京湾におけるマダライルカ *Stenella attenuate* の記録された場所 (番号は表1の事例番号に対応).

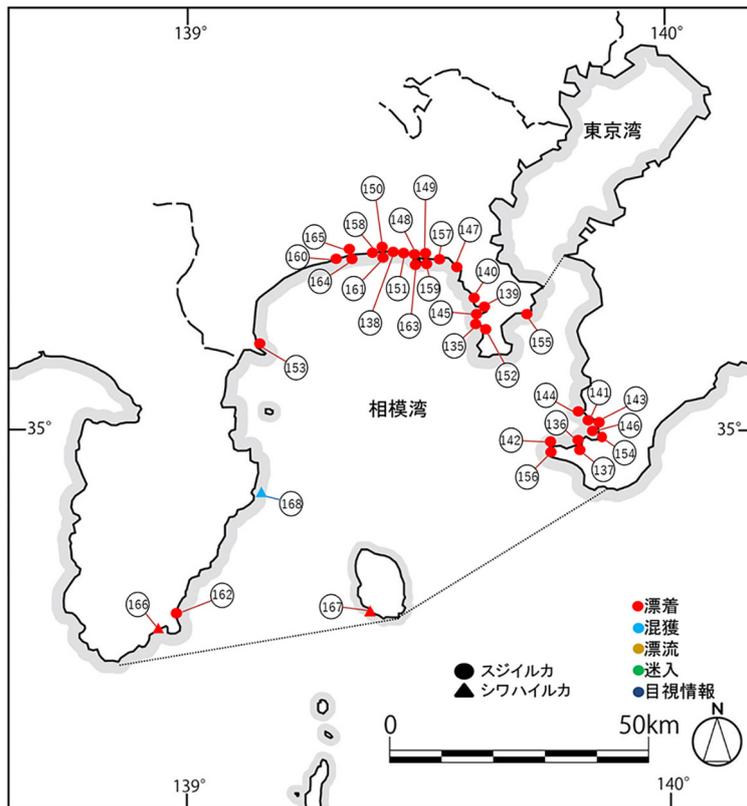


図 8. 相模湾および東京湾におけるスジイルカ *Stenella coeruleoalba* (●) とシワハイルカ *Steno bredanensis* (▲) の記録された場所 (番号は表 1 の事例番号に対応).

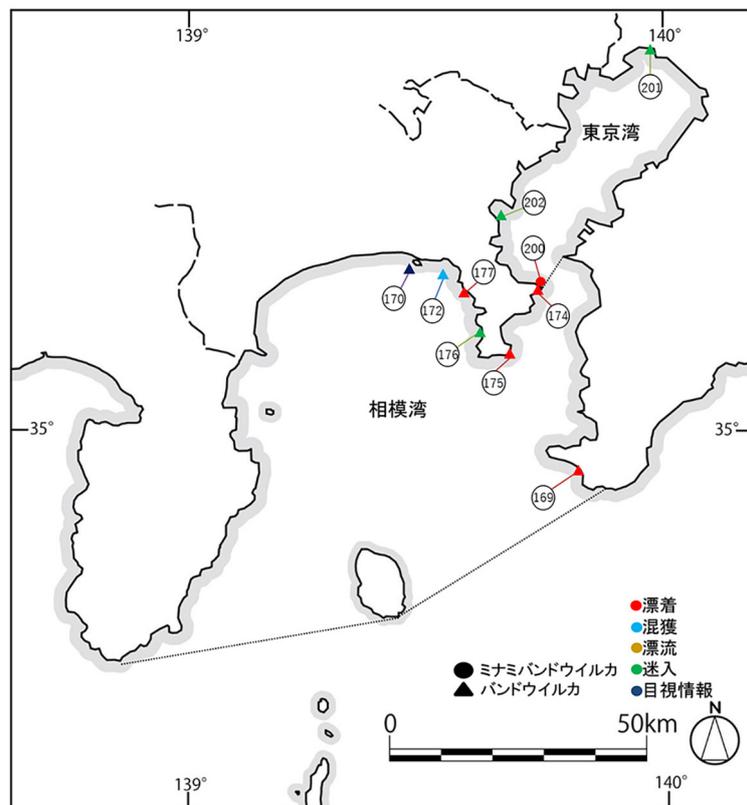


図 9. 相模湾および東京湾におけるミナミバンドウイルカ *Tursiops aduncus* (●) とバンドウイルカ *Tursiops truncatus* (▲) の記録された場所 (番号は表 1 の事例番号に対応).

表 2. 相模湾・東京湾におけるマイルカ科 Delphinidae の記録

	和名	学名	相模湾	記録	東京湾	記録
1	ハセイルカ	<i>Delphinus capensis</i>	○	4	○	1
2	マイルカ	<i>D. delphis</i>	○	1	○	6
3	ユメゴンドウ	<i>Feresa attenuata</i>	○	2	-	-
4	コビレゴンドウ	<i>Globicephala macrorhynchus</i>	○	5	-	-
5	ハナゴンドウ	<i>Grampus griseus</i>	○	50	○	6
6	サラワクイルカ	<i>Lagenodelphis hosei</i>	○	1	-	-
7	カマイルカ	<i>Lagenorhynchus obliquidens</i>	○	55	○	5
8	セミイルカ	<i>Lissodelphis borealis</i>	○	1	○	1
9	シャチ	<i>Orcinus orca</i>	○	2	○	2
10	カズハゴンドウ	<i>Peponocephala electra</i>	○	4	-	-
11	オキゴンドウ	<i>Pseudorca crassidens</i>	○	1	-	-
12	マダライルカ	<i>Stenella attenuata</i>	○	6	○	1
13	スジイルカ	<i>Stene. coeruleoalba</i>	○	33	-	-
14	シワハイルカ	<i>Steno bredanensis</i>	○	3	-	-
15	ミナミバンドウイルカ	<i>Tursiops aduncus</i>	-	-	○	1
16	バンドウイルカ	<i>T. Truncatus</i>	○	9	○	2
	計			177		25

### コビレゴンドウ

#### *Globicephala macrorhynchus* Gray, 1846

(図 2；表 1-4)

本種は国際自然保護連合 (IUCN) レッドリストカテゴリーでは低危惧種 (Least Concern) に選定されている (IUCN, online)。世界中の熱帯から温帯の遠洋域に分布する。北太平洋西部では、北海道の太平洋沖が北限とされる。日本の太平洋岸沖では、北緯 35-37 度付近の黒潮前線を境に南北で異なる 2 型があり、北方系がタツパナガ型、南方系がマゴンドウ型とされている (粕谷, 2011)。南方型の分布はフィリピン付近まで広がっている。日本海で発見された本種の形態は不明である (Ohdachi *et al.*, 2015)。北太平洋西部の本種を含むゴンドウ類の分布と分類には、まだ未解決な部分が多い (ジェファソンほか, 1993)。

本種の記録は相模湾のみ 5 例であった。記録時期は 1 月, 5 月, 7 月, 8 月, 12 月各 1 例であった。2 型の分離は北緯 35-37 度付近の銚子沖とされるが、事例番号 10 はマゴンドウ型、事例番号 12 はタツパナガ型 (私信) であった。

### ハナゴンドウ

#### *Grampus griseus* (G. Cuvier, 1812)

(図 3；表 1-4)

本種は国際自然保護連合 (IUCN) レッドリストカテゴリーでは低危惧種 (Least Concern) に選定されている (IUCN, online)。世界中の熱帯・温帯域に広く分布する。北太平洋の西側では北海道が、東側ではアラスカ湾が北限。日本では暖かい海で普通に見られる (Ohdachi *et al.*,

2015)。

本種の記録は相模湾 50 例、東京湾 6 例、計 56 例と、カマイルカに次いで 2 番目に多い記録数だった。崎山ほか (2019) 以降、相模湾にて迷入が 1 例あった。

### サラワクイルカ

#### *Lagenodelphis hosei* Fraser, 1956

(図 3；表 1-4)

本種は国際自然保護連合 (IUCN) レッドリストカテゴリーでは低危惧種 (Least Concern) に選定されている (IUCN, online)。世界中の熱帯の遠洋域に分布する。日本近海ではあまり見られず (Ohdachi *et al.*, 2015)、国立科学博物館のデータベースの記録も 11 例と少ない (国立科学博物館, online)

本種の記録は相模湾 1 例のみで、2016 年 1 月に目視情報により 30 個体程度の群れが確認されている。

### カマイルカ

#### *Lagenorhynchus obliquidens* Gill, 1865

(図 4；表 1-4)

本種は国際自然保護連合 (IUCN) レッドリストカテゴリーでは低危惧種 (Least Concern) に選定されている (IUCN, online)。日本海、オホーツク海、ベーリング海南部など北太平洋の冷温帯海域とその近海に分布する。日本近海では北海道沖のオホーツク海南部から和歌山県沖の熊野灘、日本海から台湾以北の東シナ海に分布する。北海道南部の室蘭沖の内浦湾は分娩海域の一つである (Ohdachi *et al.*, 2015)。

本種の記録は相模湾 55 例、東京湾 5 例、計 60 例とマ

イルカ科の中で最多の記録数だった。当館による目視調査（未発表）や Yamada *et al.* (2006) の目視調査でも確認されている。記録時期は1月10例, 2月8例, 3月11例, 4月13例, 5月12例, 8月3例, 11月1例, 12月2例であった。特に1-5月での記録が多く, 54例 (90%) が確認された。石川 (1995b) の本種の太平洋側でのストランディング状況と同様に春先を中心に集中した記録状況となっている。太平洋岸の個体群は三重県・和歌山県方面で越冬して, 春先には神奈川・千葉両県の沿岸を経て北上するとしているが (粕谷, 2019), 事例番号 79, 84, 192 の3例 (うち2例が発見時生存) が8月の記録でイレギュラーな事例となっている。

#### セミイルカ

##### *Lissodelphis borealis* (Peale, 1848)

(図5; 表1-4)

本種は国際自然保護連合 (IUCN) レッドリストカテゴリーでは低危惧種 (Least Concern) に選定されている (IUCN, online)。北太平洋の温帯沖合域, 東部は北緯30-50度, 西部では北緯35-51度にかけて分布する。日本の沖合では千葉県銚子以北で見られる。日本海やオホーツク海からの目撃や座礁はない (Ohdachi *et al.*, 2015)。

本種の記録は相模湾1例, 東京湾1例, 計2例であった。記録時期は3月と5月であった。相模湾での記録が国内で南限の記録と考えられる (国立科学博物館, online)。1993年以降, 両湾ともに記録がない。

#### シャチ

##### *Orcinus orca* (Linnaeus, 1758)

(図5; 表1-4)

本種は国際自然保護連合 (IUCN) レッドリストカテゴリーでは情報不足種 (Data Deficient) に選定されている (IUCN, online)。世界の海生哺乳類の中で最も広く分布し, 熱帯域から極海域までの全海洋・全海域で見られる。日本周辺では, 北太平洋西部, オホーツク海, 日本海, 東シナ海の沿岸・沖合海域で見られる (Ohdachi *et al.*, 2015)。

本種の記録は相模湾2例, 東京湾2例, 計4例であった。記録時期は4月, 5月, 8月, 12月にそれぞれ1例ずつで, 発見時はすべて生存状態での確認であった。

#### カズハゴンドウ

##### *Peponocephala electra* (Gray, 1846)

(図6; 表1-4)

本種は国際自然保護連合 (IUCN) レッドリストカテゴリーでは低危惧種 (Least Concern) に選定されている (IUCN, online)。世界中の熱帯・亜熱帯の外洋・深海域

に分布する。北太平洋西部では黒潮が流れる本州南方沖が北限となっている。日本近海では珍しいと考えられているが, 紀伊半島沖では時折目撃されることもある。日本沿岸でもっとも頻繁にマス・ストランディングが発生する鯨類の一つである (Ohdachi *et al.*, 2015)。

本種の記録は相模湾のみ4例であった。記録時期は1月, 6月, 8月, 9月にそれぞれ1例ずつであった。

#### オキゴンドウ

##### *Pseudorca crassidens* (Owen, 1846)

(図6; 表1-4)

本種は国際自然保護連合 (IUCN) レッドリストカテゴリーでは準絶滅危惧種 (Near Threatened) に選定されている (IUCN, online)。世界中の熱帯から温帯の外洋域に分布する。日本近海では, 本州中部以南, 紀伊半島沖, 九州, 特に沖縄に多く分布する。北限は太平洋・日本海ともに北海道付近である (Ohdachi *et al.*, 2015)。

本種の記録は少なく相模湾1例のみで, 1977年7月の定置網による混獲であった。水揚げされた複数の個体には胎児が確認された。1977年以降, 両湾ともに記録がない。本種は東シナ海, 日本海の沿岸域には極めて普通の種であるが, 太平洋岸での出現は比較的少ないとされている (粕谷, 2019)。

#### マダライルカ

##### *Stenella attenuata* (Gray, 1846)

(図7; 表1-4)

本種は国際自然保護連合 (IUCN) レッドリストカテゴリーでは低危惧種 (Least Concern) に選定されている (IUCN, online)。世界中の北緯40度から南緯40度の熱帯および一部の亜熱帯海域に分布する。日本近海では太平洋側では宮城県以南から, 日本海側では秋田県以南から東シナ海にかけて分布する。最も生息数が豊富な鯨類の一つである (Ohdachi *et al.*, 2015)。

本種の記録は相模湾6例, 東京湾1例, 計7例であった。記録時期は9-1月に各1例ずつ, 4月2例であった。石川 (1995b) では外洋性の本種は沖縄県の記録を除くと10-4月のみに記録されていて, 春と冬に太平洋沿岸に最も接近するとしており, おおむね同様の傾向にあった。1994年以降, 両湾ともに記録がない。

#### スジイルカ

##### *Stenella coeruleoalba* (Meyen, 1833)

(図8; 表1-4)

本種は国際自然保護連合 (IUCN) レッドリストカテゴリーでは低危惧種 (Least Concern) に選定されている (IUCN, online)。東西太平洋, 大西洋, インド洋および地中海を含む温帯から熱帯域に広く分布する。日本近海

表 3. 相模湾・東京湾のマイルカ科 Delphinidae の月別の記録数

和名	学名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
1 ハセイルカ	<i>Delphinus capensis</i>	1	0	1	0	0	1	1	0	0	0	1	0	5
2 マイルカ	<i>D. delphis</i>	2	0	0	1	0	0	0	1	2	0	0	1	7
3 ユメゴンドウ	<i>Feresa attenuata</i>	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	2
4 コビレゴンドウ	<i>Globicephala macrorhynchus</i>	1	0	0	0	1	0	1	1	0	0	0	1	5
5 ハナゴンドウ	<i>Grampus griseus</i>	5	4	5	10	10	4	2	2	2	2	8	2	56
6 サラワクイルカ	<i>Lagenodelphis hosei</i>	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
7 カマイルカ	<i>Lagenorhynchus obliquidens</i>	10	8	11	13	12	0	0	3	0	0	1	2	60
8 セミイルカ	<i>Lissodelphis borealis</i>	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2
9 シャチ	<i>Orcinus orca</i>	0	0	0	1	1	0	0	1	0	0	0	1	4
10 カズハゴンドウ	<i>Peponocephala electra</i>	1	0	0	0	0	1	0	1	1	0	0	0	4
11 オキゴンドウ	<i>Pseudorca crassidens</i>	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
12 マダライルカ	<i>Stenella attenuata</i>	1	0	0	2	0	0	0	0	1	1	1	1	7
13 スジイルカ	<i>Stene. coeruleoalba</i>	0	4	6	8	6	3	0	0	1	3	0	2	33
14 シワハイルカ	<i>Steno bredanensis</i>	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	3
15 ミナミバンドウイルカ	<i>Tursiops aduncus</i>	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
16 バンドウイルカ	<i>T. truncatus</i>	2	0	2	1	0	0	2	3	0	0	0	1	11
計		23	16	24	35	31	10	6	9	7	7	11	11	202

表 4. 相模湾・東京湾のマイルカ科 Delphinidae の発見時の状況

和名	学名	漂着	混獲	漂流	迷入	目視情報	不明	計
1 ハセイルカ	<i>Delphinus capensis</i>	1	1	0	2	1	0	5
2 マイルカ	<i>D. delphis</i>	1	0	0	6	0	0	7
3 ユメゴンドウ	<i>Feresa attenuata</i>	0	0	0	2	0	0	2
4 コビレゴンドウ	<i>Globicephala macrorhynchus</i>	2	2	0	1	0	0	5
5 ハナゴンドウ	<i>Grampus griseus</i>	32	12	0	11	1	0	56
6 サラワクイルカ	<i>Lagenodelphis hosei</i>	0	0	0	0	1	0	1
7 カマイルカ	<i>Lagenorhynchus obliquidens</i>	32	15	1	8	3	1	60
8 セミイルカ	<i>Lissodelphis borealis</i>	1	0	0	1	0	0	2
9 シャチ	<i>Orcinus orca</i>	0	0	0	2	2	0	4
10 カズハゴンドウ	<i>Peponocephala electra</i>	3	0	0	0	1	0	4
11 オキゴンドウ	<i>Pseudorca crassidens</i>	0	1	0	0	0	0	1
12 マダライルカ	<i>Stenella attenuata</i>	3	0	0	3	0	1	7
13 スジイルカ	<i>Stene. coeruleoalba</i>	33	0	0	0	0	0	33
14 シワハイルカ	<i>Steno bredanensis</i>	2	1	0	0	0	0	3
15 ミナミバンドウイルカ	<i>Tursiops aduncus</i>	1	0	0	0	0	0	1
16 バンドウイルカ	<i>T. truncatus</i>	5	1	0	3	2	0	11
計		116	33	1	39	11	2	202

では、太平洋岸では三陸沿岸が北限である。日本海側や東シナ海では稀である (Ohdachi *et al.*, 2015)。

本種の記録は相模湾のみ 33 例で、ハナゴンドウに次いで 3 番目に多い記録数だった。記録の多い時期は 2 月 4 例, 3 月 6 例, 4 月 8 例, 5 月 6 例, 6 月 3 例と, 10 月 3 例であった。伊豆沖の本種は数を減らしているとするが (粕谷, 2019), 2000 年以降, 相模湾では数年に一度は記録があり, 特に 2019–2020 年は, 年に 6 例以上で春先に (全 14 例中 13 例) 集中している。

### シワハイルカ

#### *Steno bredanensis* (G. Cuvier in Lesson, 1828)

(図 8; 表 1–4)

本種は国際自然保護連合 (IUCN) レッドリストカテゴリーでは低危惧種 (Least Concern) に選定されている (IUCN, online)。世界中の熱帯・亜熱帯・温帯海域に分布する。日本周辺では太平洋側では本州北部以南, 東シナ海に分布し, 夏季には日本海にも出現することがある (Ohdachi *et al.*, 2015)。

本種の記録は相模湾のみ 3 例であった。記録時期は 1 月, 7 月, 12 月にそれぞれ 1 例ずつだった。

### ミナミバンドウイルカ

#### *Tursiops aduncus* (Ehrenberg, 1833)

(図 9; 表 1–4)

本種は国際自然保護連合 (IUCN) レッドリストカテゴリーでは準絶滅危惧種 (Near Threatened) に選定されている (IUCN, online)。本種は古い文献などではバンドウイルカと区別されていなかったが, 国際捕鯨委員会 (IWC) の出版物では 2000 年以降から区別されている。インド洋, 太平洋西部の温帯から熱帯海域に分布する。日本周辺では, 御蔵島, 小笠原諸島, 豊後水道, 天草, 鹿児島湾, 奄美大島諸島などの温帯海域に限定的に分布している (Ohdachi *et al.*, 2015)。

本種の記録は東京湾 1 例のみであった。記録時期は 8 月で死亡漂着による記録であった。今回の情報源は漂着記録が主のため反映されていないが, 御蔵島の個体群が房総半島や伊豆半島東岸ほかに移住しているという報告があり (Tsuji *et al.*, 2017), その動向は注目される。

### バンドウイルカ

#### *Tursiops truncatus* (Montagu, 1821)

(図 9; 表 1–4)

本種は国際自然保護連合 (IUCN) レッドリストカテゴリーでは低危惧種 (Least Concern) に選定されている (IUCN, online)。世界中の温帯から熱帯域の沿岸から沖合に分布する。日本周辺では, 北海道南部までの太平洋, 日本海, 東シナ海で見られる (Ohdachi *et al.*, 2015)。

本種の記録は相模湾 9 例, 東京湾 2 例, 計 11 例であった。記録時期は 8 月 3 例, 1 月, 3 月, 7 月に各 2 例, 4 月, 12 月に各 1 例であった。石川 (1995b) では本種のストランディングについて季節的な特徴はないとしている。2000 年頃, 江の島沖に本種 2 頭がしばらく定住していた (事例番号 170)。

## 考 察

1934 年 5 月から 2020 年 6 月の間に相模湾, 東京湾沿岸で記録されたハクジラ亜目マイルカ科は, 相模湾 13 属 15 種, 東京湾 7 属 9 種, 両湾を合わせると 13 属 16 種が記録されていた (表 1, 2)。日本近海におけるハクジラ亜目マイルカ科は, ハセイルカ, マイルカ, ユメゴンドウ, ヒレナガゴンドウ *Globicephala melas*, コビレゴンドウ, ハナゴンドウ, サラワクイルカ, カマイルカ, セマイルカ, シャチ, カズハゴンドウ, オキゴンドウ, マダライルカ, スジイルカ, ハシナガイルカ *Stenella longirostris*, シワハイルカ, ミナミバンドウイルカ, バンドウイルカの 13 属 18 種が記録されている (粕谷, 2011)。これを踏まえると, 日本近海で記録されているハクジラ亜目マイルカ科の 18 種のうち 16 種 (約 88.9%) が相模湾と東京湾で記録されていることが明らかとなった。記録の多い順にカマイルカ (60 例), ハナゴンドウ (56 例), スジイルカ (33 例), バンドウイルカ (11 例), マイルカ (7 例), マダライルカ (7 例) で, それ以外の種は 5 例以下であり, 上位 3 種が特に多かった。本報告では調査捕鯨や商業捕鯨などの記録は除外しているが, 伊豆半島のイルカ漁で捕獲されていた, あるいは近海に分布していた種としてあげられているものとして, コビレゴンドウ, ハナゴンドウ, カマイルカ, シャチ, スジイルカ, バンドウイルカ, の 6 種があげられている (竹中, 1890; 川島, 1894; 粕谷, 2011)。また, 伊豆地方で行われてきた追い込み漁における水揚げ統計には, マイルカ, ユメゴンドウ, コビレゴンドウ, ハナゴンドウ, カマイルカ, オキゴンドウ, マダライルカ, スジイルカ, シワハイルカ, バンドウイルカの 10 種があげられており (粕谷, 2011), これらの 11 種については, 報告当時に相模湾近海に來遊, 生息していたものと考えられ, また, 本報告の集計でも記録されている。なお, セマイルカは 1993 年, オキゴンドウは 1977 年, マダライルカは 1994 年をそれぞれ最後に近年は記録されていない。相模湾, 東京湾で記録の無かった 2 種のうち, ヒレナガゴンドウについては, 北太平洋では 12–13 世紀までは存在していたが, 現在は絶滅したと考えられている (Kasuya, 1975; Crockford, 2008; 粕谷 2011, 2019)。また南半球の個体群は北半球のものと隔離されているため (ジェファソンほか, 1993), 現状, 相模湾, 東京湾で発見される可能性は低いと考えられる。一方, ハシナガイルカについては, 生息域は熱帯から亜熱帯で, 国立科学博物館ストランディングデータベースでは鹿児島県や東京小笠原,

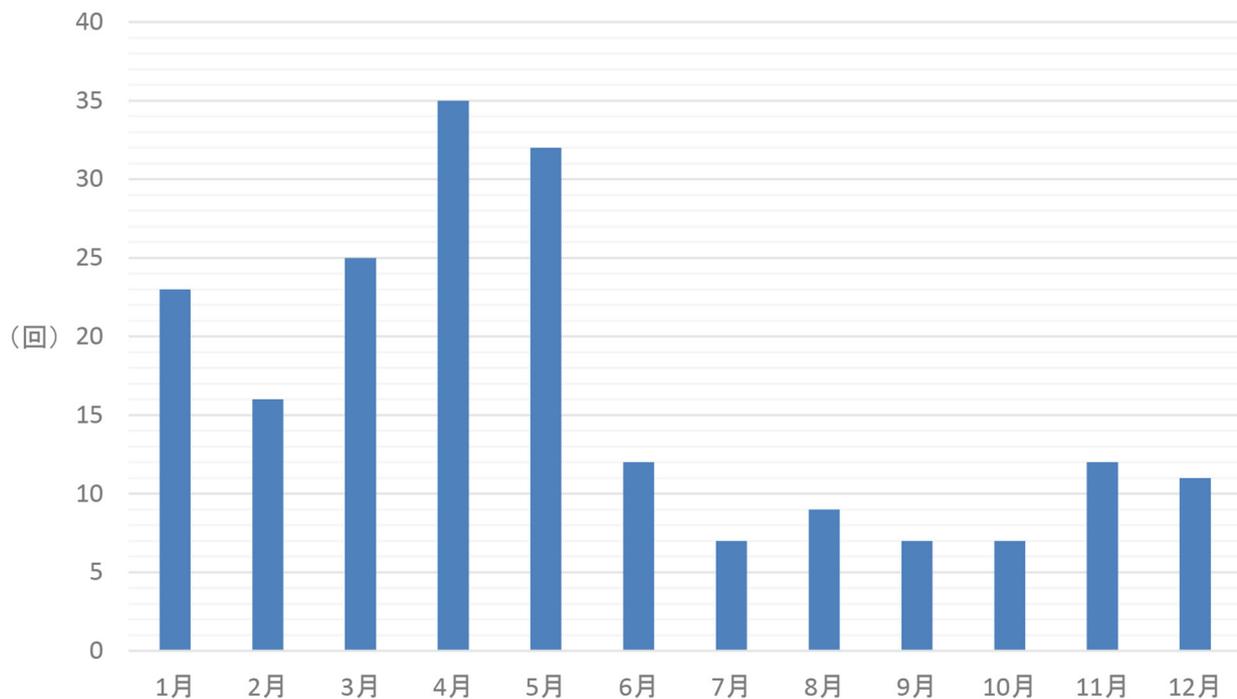


図 10. 相模湾・東京湾におけるマイルカ科 Delphinidae の月別の記録数.

オホーツク海でも記録されているため(国立科学博物館, online), 今後, 相模湾, 東京湾でも記録される可能性はあるものと考えられる。

相模湾, 東京湾におけるマイルカ科のストランディング発生位置は, 202 例中, 相模湾が 177 例 (87.6%), 東京湾が 25 例 (12.4%) であった。地域別で見ると, 神奈川県沿岸 104 例 (51.5%), 千葉県沿岸 69 例 (34.2%), 静岡県沿岸 21 例 (10.4%), 伊豆大島を含む東京都沿岸 8 例 (4%) であった。(図 1-9)。全体をまとめてみると, 房総半島西岸の浦賀水道以南, 神奈川県中郡大磯町から三浦半島沿岸にかけて多く確認された(図 12, 13)。相模湾の海流については宇田(1937)が湾内の典型的な流れを示している。伊豆大島の西から湾内に入った黒潮分岐流は細かく分かれているが, 大きな流れの先に三浦半島や房総半島が存在している。鯨類が沖合で死亡, または衰弱した場合にはこの流れに沿って流れて三浦半島や房総半島西側を中心に漂着しやすいものと考えられた。伊豆半島については沿岸部が切り立った磯や岩場になっている場所が多く, それに伴い人が海岸に立ち入ることも少ないこと, また人口の関係から小型鯨類がストランディングをしても発見されにくい可能性が考えられた。記録された時期については, 4-5 月が最も多かった(表 3; 図 10)。この様子は石川(1995a)の日本全国の太平洋側の記録にかなり似ており, 特に 1-5 月の動向はほぼ同様であった。石川(1995a)では 9 月に増えて以降微減していくが, 本報告では 9 月, 10 月が少なかった。記録数の多かったカマイルカ, ハナゴンドウ, スジイルカも 3-5 月の記録が際立っていた(表 3)。

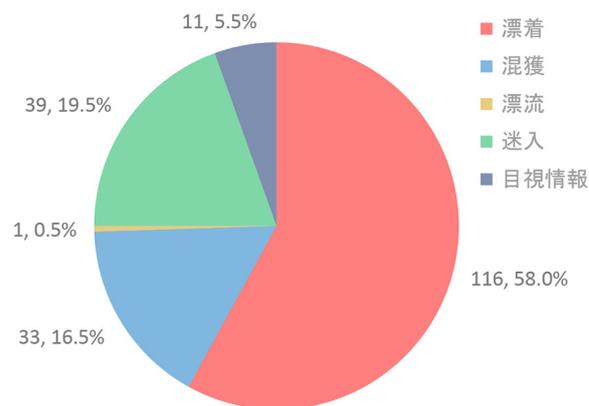


図 11. 相模湾・東京湾におけるマイルカ科 Delphinidae のストランディング発生時の状況.

発見時の状況は漂着が最も多く, 相模湾, 東京湾合わせて 116 例 (57.4%) で, 迷入が 39 例 (19.3%), 混獲が 33 例 (16.3%) であった(表 4; 図 11)。漂着のほとんどは相模湾での記録で, 東京湾においては 25 例の記録のうち, 24 例 (96%) が迷入による記録であった(表 1)。発見時の状況を生死に分けて見てみると, 房総半島西岸と三浦半島沿岸に多いことは同様だが, 三浦半島東岸から東京湾内にかけてと伊豆半島東岸での生存状態での発見がわずかながら多く見られた(図 12, 13)。加登岡ほか(2020)のヒゲクジラ亜目と同様に, 東京湾におけるマイルカ科の混獲はなかった。東京湾での鯨類のストランディングにおいて, 混獲が一例も記録されていないのは東京湾内での定置網の操業が行われていないため

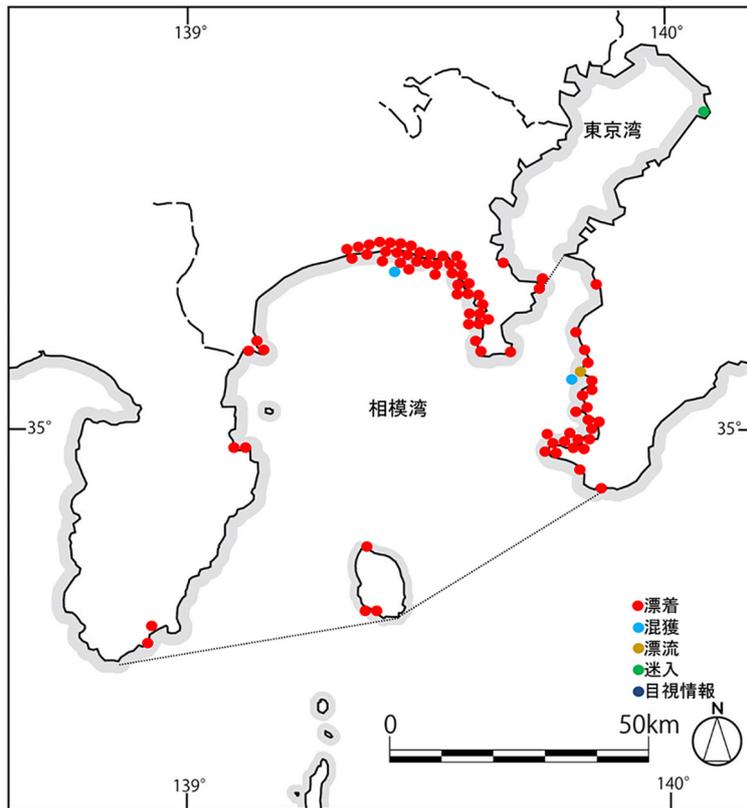


図 12. 相模湾および東京湾における死亡状態で発見されたマイルカ科 Delphinidae の記録された場所.

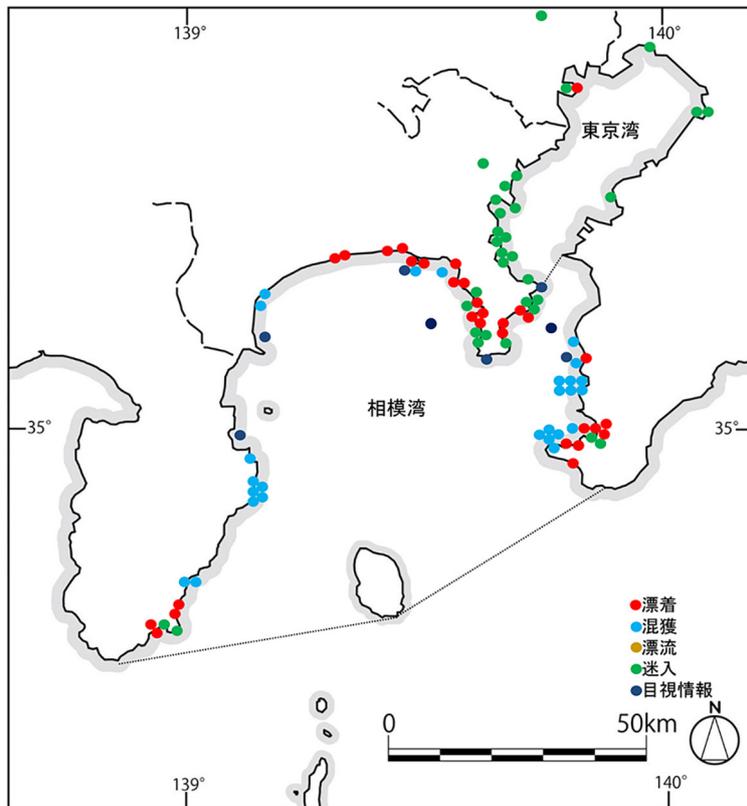


図 13. 相模湾および東京湾における生存状態で発見されたマイルカ科 Delphinidae の記録された場所.

と考えられる(社団法人日本海難防止協会, online)。多くが迷入で漂着が少ないことは海岸線が人工の垂直護岸になっていること, 工場・港湾などで人が入りやすく発見されにくいこと, ならびに海流の関係が考えられた。

漂着時の個体数は, 単独個体が150例(74.3%), 複数個体が52例(25.7%)であった。10例が10個体以上確認され, 最大が事例番号9のコビレゴンドウによるもので300個体の混獲事例であった。

サイズは本報告で扱ったのがマイルカ科ということもあり, 比較的大型になるシャチやコビレゴンドウを除くとおおむね体長1.5-3 mで, 2 m前後のものが多く, 漂着場所によっては見つけられないことや, 再び波に飲まれて流されてしまうことも予想された。

これまで全国の鯨類の記録に関しては, 国立科学博物館, 日本鯨類研究所, 下関海洋アカデミー鯨類研究室等により蓄積されてきた。それらのデータや既存の報告を有効活用し, 地域ごとに出現状況を把握することで, それらの分布域や生態, 地域特性を知ることができ, また経年的に見るとそれらの変化も見えてくる可能性がある。本報告では加登岡ほか(2020)に続き, 相模湾と東京湾におけるハクジラ亜目マイルカ科の記録を集計した。太平洋側の一部の海域でしかないが, 今後, その他のハクジラ亜目等に関しても出現情報をまとめ, 同湾内の動物相や鯨類調査の基礎資料とするとともに他の海域との比較検討等も進めていきたい。

## 謝 辞

ストランディングデータを提供していただいた観音崎自然博物館学芸部長の山田和彦氏, 日本鯨類研究所, 神奈川ストランディングネットワーク, コビレゴンドウの情報をいただいた株式会社横浜八景島の奥津健司氏, 文献情報を教えてくださった神奈川県水産技術センターの岸香緒里氏, 報告の機会を与えていただいた新江ノ島水族館の竹嶋徹夫館長, 堀一久氏はじめ展示飼育部の諸氏, 英文要旨作成にご助言を与えられた大山卓司氏に感謝の意を表す。また, 原稿改訂に有益な助言を与えられた査読者の方と編集委員会の皆様に対して心より御礼申し上げる。

## 引用文献

Crockford, S. J., 2008. Be careful what you ask for: archaeozoological evidence of mid-Holocene climate change in the Bering Sea and implications for the origins of Arctic Thule. In Geoffrey, C., G. F. Leach & S. O'Connor, *Islands of inquiry: colonisation, seafaring and the archaeology of maritime landscape*, pp. 113-131. Terra Australis, ANU Press, Canberra.

石川 創編, 1995a. ストランディングレコードから見た日本沿岸の鯨類の生態(I). 鯨研通信, (387): 1-7.

石川 創編, 1995b. ストランディングレコードから見た日本沿岸の鯨類の生態(II). 鯨研通信, (388): 6-11.

石川 創編, 2014. ストランディングレコード(2013年収集). 下

関鯨類研究室報告, (2): 25-26.

石川 創編, 2015. ストランディングレコード(2014年収集). 下関鯨類研究室報告, (3): 32-34.

石川 創編, 2016. ストランディングレコード(2015年収集). 下関鯨類研究室報告, (4): 42-45.

石川 創編, 2017. ストランディングレコード(2016年収集). 下関鯨類研究室報告, (5): 37-40.

石川 創編, 2018. ストランディングレコード(2017年収集). 下関鯨類研究室報告, (6): 53-55.

石川 創編, 2019. ストランディングレコード(2018-2019年収集). 下関鯨類研究室報告, (7): 27-68.

石川 創・後藤睦夫・茂越敏弘編, 2013. ストランディングレコード(1901-2012). 下関鯨類研究室報告, (1): 6-83.

IUCN, online. The IUCN Red List of Threatened Species. <https://www.iucnredlist.org/> (accessed on 2020-September-20).

ジェファソン(Jefferson, T. A.), レザウウッド(S. Leatherwood), & ウェバー(M. A. Webber), 1993. FAO species identification guide: marine mammals of the world. 山田 格訳, 1999. 海の哺乳類FAO種同定ガイド, 336 pp. NTT出版株式会社, 東京.

鴨川シーワールド, 1992. 海獣類の漂着記録. 鴨川シーワールド報告I, 業績集, pp. 347-349.

Kasuya, T., 1975. Past occurrence of *Globicephala melaena* in the western North Pacific. *The Scientific Reports of the Whales Research Institute*, (27): 95-110.

粕谷俊雄, 2011. イルカ: 小型鯨類の保全生物学. 640 pp. 東京大学出版会, 東京.

粕谷俊雄, 2019. イルカ概論: 日本近海産小型鯨類の生態と保全. 337 pp. 東京大学出版会, 東京.

加登岡大希・崎山直夫・石川 創・山田 格・田島木綿子・樽 創, 2020. 相模湾・東京湾沿岸で記録されたヒゲクジラ亜目(Mysticeti)について. 神奈川自然誌資料, (41): 83-93.

川島瀧蔵, 1894. 静岡県水産誌. 巻1: 144丁; 巻2: 91丁; 巻3: 203丁; 巻4: 181丁. 静岡県漁業組合取締所, 静岡.

国立科学博物館, online. 海棲哺乳類ストランディングデータベース. <http://www.kahaku.go.jp/research/db/zoology/marmam/drift/index.php> (accessed on 2020- August-31).

中村一恵・山口佳秀・平田寛重・浜口哲一, 1994. 神奈川沿岸産哺乳類目録. 神奈川自然誌資料, (16): 1-9.

日本鯨類研究所, 1988a. ストランディング・レコードー9. 鯨研通信, (372): 7-8.

日本鯨類研究所, 1988b. ストランディング・レコードー11. 鯨研通信, (374): 44.

日本鯨類研究所, 1989a. ストランディング・レコードー12. 鯨研通信, (375): 14.

日本鯨類研究所, 1989b. ストランディング・レコードー13. 鯨研通信, (376): 7-10.

日本鯨類研究所, 1990. ストランディング・レコードー16. 鯨研通信, (380): 16.

日本鯨類研究所, 1994. ストランディング・レコードー1994年1月~8月. 鯨研通信, (383): 17-18.

日本鯨類研究所, 1995. ストランディング・レコードー1994年12月~1995年6月受付. 鯨研通信, (386): 17-18.

日本鯨類研究所, 1996. ストランディングレコード(1995年12月~1996年2月受付) 鯨研通信, (389): 21-22.

日本鯨類研究所, 1997. ストランディングレコード(1997年3月~4月受付) 鯨研通信, (394): 28.

日本鯨類研究所, 1999. ストランディングレコード(1999年2月~5月受付) 鯨研通信, (403): 19-24.

日本鯨類研究所, 2000a. ストランディングレコード(1999年11月~2000年4月受付) 鯨研通信, (406): 25-28.

日本鯨類研究所, 2000b. ストランディングレコード(2000年4月~7月) 鯨研通信, (407): 21-28.

日本鯨類研究所, 2001. ストランディングレコード(2000年12月~2001年2月受付) 鯨研通信, (409): 20-24.

- 日本鯨類研究所, 2003a. ストランディングレコード (2002年12月～2003年2月受付) 鯨研通信, (417): 18–22.
- 日本鯨類研究所, 2003b. ストランディングレコード (2003年6月～8月受付) 鯨研通信, (419): 26–32.
- 日本鯨類研究所, 2003c. ストランディングレコード (2003年9月～11月受付) 鯨研通信, (420): 21–24.
- 日本鯨類研究所, online. 鯨類ストランディング (座礁・漂着・漂流・迷入)・定置網混獲: ストランディングした鯨について. ストランディングレコードデータ, 1996~2015年. <https://www.icrwhale.org/zasho2.html> (accessed on 2020–August–31).
- Ohdachi, S. D., Y. Ishibashi, M. A. Iwasa, D. Fukui & T. Saitou (eds.), 2015. The wild mammals of Japan, 2nd. ed. xxvi+511 pp. Shoukadoh Book Sellers, Kyoto, Japan.
- 崎山直夫・萩原清司・村石健一, 2011. 横須賀市笠島に漂着したコマッコウ (クジラ目: コマッコウ科) について. 横須賀市博物館研究報告 (自然), (58): 43–45.
- 崎山直夫・鈴木聡・石井雅之・藤原克則・加登岡大希・樽 創, 2019. 相模湾・東京湾沿岸で記録されたハナゴンドウ (クジラ目: マイルカ科) について. 神奈川自然誌資料, (40): 95–102.
- 佐藤武宏, 2017. 日本の海の自然を詰め込んだ箱庭・相模湾. 自然科学のとびら, **23**(3): 22–23.
- 瀬能 宏・松浦啓一, 2007. 相模湾の魚たちと黒潮: ベルトコンベヤーか障壁か. 国立科学博物館編, 相模湾動物誌, pp. 121–133. 東京大学出版会, 東京.
- 社団法人日本海難防止協会, online. 平成22年度海運・水産関係団体連絡協議会東京湾漁業操業情報図. <http://www.nikkaibo.or.jp/figure> (accessed on 2020–August–31).
- 田島木綿子, 2019. 国内初となるシロナガスクジラ漂着個体の調査概要. 朝日新聞社編, 大哺乳類展2: みんなの生き残り作戦, pp. 182–188. 朝日新聞社, 東京.
- 竹中邦香, 1890. 海豚捕獲の統計及び利用上の調査. 大日本水産会報告, (98): 241–249.
- 樽 創, 2006. 2005年のストランディングから. 自然科学のとびら, **12**(3): 20–21.
- 樽 創・崎山直夫・鈴木聡・田島木綿子, 2018. 日本に初めて打ち上げられたシロナガスクジラ. 自然科学のとびら, **24**(4): 28–29.
- Terasawa, F., T. Yamagami, M. Kitamura & A. Fujimoto, 1997. A pygmy killer whale (*Feresa attenuata*) stranded at Sagami Bay, Japan. *Aquatic Mammals*, **23**(1):69–72.
- Tsuji, K., K. Kogi, M. Sakai & T. Morisaka, 2017. Emigration of Indo-Pacific bottlenose dolphins (*Tursiops aduncus*) from Mikura Island, Japan. *Aquatic Mammals*, **43**(6): 585–593.
- 宇田道隆, 1937. 「ぶり」漁期に於ける相模湾の海況及び氣象と漁況との關係. 水産試験報告, **8**: 1–50.
- 山田和彦・磯貝高弘, 1992. 三浦半島周辺における鯨類ストランディングレコード. 京急油壺マリンパーク水族館年報, (16): 24–28.
- Yamada, T. K., T. Kuramochi, M. Amano & H. Ishikawa, 2006. Marine mammalian migrants of Sagami Bay and adjacent areas. *Memoirs of the National Science Museum*, Tokyo, (41): 569–575.

---

花上諒大・崎山直夫・加登岡大希: 新江ノ島水族館, 神奈川ストランディングネットワーク; 石川 創: 株式会社大阪海洋研究所太地事務所; 山田 格・田島木綿子: 国立科学博物館; 鈴木 聡・樽 創: 神奈川県立生命の星・地球博物館, 神奈川ストランディングネットワーク

(受領 2020 年 10 月 31 日; 受理 2021 年 2 月 15 日)